

令和3年度第2回四街道市みんなで地域づくり推進委員会

日時 令和4年1月31日（月）9時40分～

会場 四街道市保健センター3階第2会議室

次 第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 事

(1)地域づくりコーディネーター業務報告について

(2)みんなで地域づくり事業提案制度（令和4年度実施分）提案事業の
審査について

4 その他

5 閉 会

令和3年度4月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156											
1日あたり来所者数 (人)	8											
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17											
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87											
新着情報 (件)	31											
相談件数 (件)	7											

- ・開館日 19日、休館日に主催事業等を行った日 0日 ・来所者数のうち、オンラインは6人。
- ・今年度より、開館時間が火曜日～金曜日 9時～17時、第1・3土曜日 9時～17時と変わり、ホームページ、Facebookなどでお知らせをした。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

- 市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。
- 市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。
- 市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～ (企画・準備)

- ・講座の企画準備を行い、市政だより5月1日号に掲載、詳細については、センターホームページに掲載した。

予定(変更有)	テーマ・担当課・関係機関など	会場
災害支援のコト 5月20日(木) 10:00～11:30	交流会「みんなで災害支援を考えよう ～障害のある人の支援」	文化センター203
認知症のコト ①6月22日(火) 11:20～12:40 ②7月30日(金) 13:30～16:00 ③8月10日(火) 10:00～11:30	①学習会「認知症を知ろう」 ②講演会・交流会「認知症の人をサポートするには」 ③交流会「地域でできることを考えよう」	①わろうべの里 わろうびんぐホール ②文化センター206 ③文化センター203
子どもたちのコト 6月29日(火) 10:00～11:30	学習会「みんなが笑顔のまち子ども条例」を知ろう	みんなで地域づくりセンター

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・子どもサポートプロジェクト

中高生のオープンスペースRaku まある 4月20日再開

子ども支援団体交流会 7月10日(土) 予定。企画について子どもサポートプロジェクトで意見集約中

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

- ・みんなで災害支援ネットワークづくり 引き続き参加者情報シート集約
- ・みんなのコト みんなで災害支援を考えよう ～障害のある人の支援 5月20日開催準備

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

・大きなテーブル 福祉施設紹介・販売フェア(企画・準備)

※事前説明会 4月20日(出席 はちみつ、ピース、青空協同組合、ワークショップ四街道、てとて、どんぐり工房、とんぼ舎、スマイルハート、和棉ばたけ、ピンコロ農園、ベーぐるきっちゃん)

日時 6/12(土) 10:30~14:30 (少雨決行)

会場 文化センター前広場(屋外・テント使用) 飲食なし、火気使用なし

コロナ対策 マスク、検温・記名、アルコール消毒 を行う(各団体1名担当、受付2か所)

参加団体 福祉団体 9団体、協賛 5団体

広報 チラシ配布4000枚、市政だより5月15日号、当日の団体広報物(チラシ・ポスター・のぼりなど)

・講座「福祉」×「ものづくり」×「地域づくり」

地域とつながるものづくり 商品の価値を伝えるデザイン

	日時	内容	参加
①	4月17日(土) 13:00-15:00 (オンラインとセンター)	趣旨 福祉団体がものづくりを通して地域とつながるために、デザインで商品の価値を伝えるためのコツや考え方を学ぶ。 ①講演 山本友美さん(いぶき福祉社会ブランドマネージャー) ②ワークショップ 参加団体の商品についてみんなで一緒に考えよう! ・はちみつ、青空協同組合の商品について、講師からのアドバイス [講座アンケートから] 回答数6人 大変満足4、満足2 「収穫だな」と思ったこと: 情報発信の大切さと、改めて自分たちの作っている製品の良さや可能性に気付かせていただいた/作品のみの宣伝ではなく使い方を提案していく、は頭になかったことだったので勉強になった感想・意見: 沢山のヒントを頂き、感謝しきれません・・・成果がありましたら、ご報告させて頂きたい/障がい者が作ったのか、可哀想だから買ってやろう、ではなく、素敵な作品を障がいのある人が作ったんだ、と言われるほどのものを作っていきたい	10人 (スタッフ4人)

その後の展開

4月20日「大きなテーブル事前説明会」で、他の福祉団体等にも講座の内容を共有し、今後、「大きなテーブル」出展などに向けて、ものづくりの工夫や情報発信の点で生かしていくことについて意見交換した。

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタは、11月27日(土)を予定し、9月に実行委で決定・準備スタートをする。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」28号(6月発行、テーマは災害支援)を編集。
- ・Facebook で今年度の開館時間、ホームページ「みんなでカレンダー」、イベントのお知らせなどを行った。
(いいね!762)
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。(掲載77団体)
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。(講座をオンラインで実施)
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

- ・講座「福祉」×「ものづくり」×「地域づくり」地域とつながるものづくり 商品の価値を伝えるデザインを実施。(大きなテーブル関連の所に記載)

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用にあたっては、利用者名簿記入、健康状態をチェック、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、着席の際に間隔をあけることなど、感染予防に配慮した。

令和3年度5月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163										
1日あたり来所者数 (人)	8	9										
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14										
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76										
新着情報 (件)	31	34										
相談件数 (件)	7	10										

- ・開館日 18日、休館日に主催事業等を行った日 0日 ・来所者数のうち、オンラインは0人。
- ・今年度より、開館時間が火曜日～金曜日 9時～17時、第1・3土曜日 9時～17時となっている。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

- 市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。
- 市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。
- 市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取り組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

- ・講座の企画準備を行い、市政だより5月1日号に掲載、詳細については、センターホームページに掲載した。

日時	内容	参加
災害支援のコト 5月20日(木) 10:00～11:30 文化センター 203	交流会「みんなで災害支援を考えよう ～障害のある人の支援」 参加者：視覚・聴覚障害当事者と家族、精神障害ほか支援施設、みんなで災害支援ネットワークの会メンバー、市民、障害者支援課、浦安市社会福祉協議会等 1. 事例報告「障害のある人の支援に必要なこと」 「台風15号の被害聞き取り調査から思うこと」 視覚障害者総合支援センター ちば 川崎弘所長 「避難訓練を通じて見えてきた課題」 ワークショップ四街道 サービス管理責任者 後藤友紀さん 2. 参加者全員によるワーク ①質問 ②予想される困りごと・課題 ③解決に向けて考えられる方法やアイデアを付箋に記入 シーン1) 被災直後のコト 2) 障害のある人ご自身の身体のコト 3) 避難所生活のコト 4) 在宅避難のコト 5) 情報収集のコト 6) そのほかのコト	36人 (スタッフ等 8人)

	<p>3. 意見交換</p> <p>障害当事者から：複数の障害があるために一人では移動できない、なにかあっても在宅避難をしようと思う。</p> <p>支援施設から：当事者への支援の充実を／そもそも、避難所がどのような場所なのかわからない</p> <p>市民から：高齢者を含め、支援を必要としている人が地域にはたくさんいるはず。どんな支援を必要とする人がいるか、狭い範囲でのネットワークが必要／障害のある人の支援体制が避難所を運営する側にも周知されていない など。</p> <p>※今後センターでは、挙げられた課題をさらに分析し、一つでも多く解決に結びつく方法を皆さんと共に考える機会をもちたい。同時に「みんなで災害支援ネットワークの会」でも課題を共有しメンバーの資源や知識を集めて方法を探る。</p>	
<p>認知症のコト</p> <p>①6月22日(火) 11:20~12:40</p> <p>②7月30日(金) 13:30~16:00</p> <p>③8月10日(火) 10:00~11:30</p>	<p>①学習会「認知症を知ろう」 わろうべの里 わろうびんぐホール</p> <p>②講演会・交流会「認知症の人をサポートするには」 文化センター206</p> <p>③交流会「地域でできることを考えよう」 文化センター203</p>	
<p>子どもたちのコト</p> <p>6月29日(火) 10:00~11:30</p>	<p>学習会「みんなが笑顔のまち子ども条例」を知ろう みんなで地域づくりセンター</p>	

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

- ・子どもサポートプロジェクト ミーティングは6月6日(日)ZOOMで開催予定
中高生のオープンスペースRaku まある 5月18日再開
子ども支援団体交流会・円卓会議 7月9日(金)10:00~12:00 文化センター203号室(企画・準備)
「コロナ禍での子ども達、乳幼児親子の様子」

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

- ・みんなで災害支援ネットワークづくり 引き続き参加者情報シート集約
- ・みんなのコト みんなで災害支援を考えよう ~障害のある人の支援 5月20日

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

- ・大きなテーブル 福祉施設紹介・販売フェア(企画・準備)
日時 6/12(土)10:30~14:30(少雨決行)
会場 文化センター前広場(屋外・テント使用)飲食なし、火気使用なし
コロナ対策 マスク、検温・記名、アルコール消毒を行う(各団体1名担当、受付2か所)
参加団体 福祉団体9団体、協賛5団体 広報 チラシ配布4000枚、市政だより5月15日号

当日の団体広報物（チラシ・ポスター・のぼりなど）

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタは、11月27日（土）を予定し、9月に実行委で決定・準備スタートをする。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」28号（6月発行、テーマは災害支援）を編集。
- ・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。（いいね！766）
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。（テーマは、よろこび）
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。（掲載77団体）
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用にあたっては、利用者名簿記入、健康状態をチェック、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、着席の際に間隔をあけることなど、感染予防に配慮した。

令和3年度6月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176									
1日あたり来所者数 (人)	8	9	35									
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11									
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64									
新着情報 (件)	31	34	34									
相談件数 (件)	7	10	6									

・開館日 20 日、休館日に主催事業等を行った日 2 日 ・来所者数のうち、オンラインは 9 人 (子どもサポートプロジェクトミーティング)

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

・講座の企画準備を行い、市政だより 5 月 1 日号に掲載、詳細については、センターホームページに掲載した。

日時	内容	参加
認知症のコト ①6月22日(火) 11:20~12:40 わろうべの里 わろうびんぐ ホール	①学習会「認知症を知ろう」 ・認知症の基礎知識について 地域包括支援センター 遠藤祐子さん(社会福祉士) ・事例発表 認知症の方を介護する家族から ・事例を受けて 千葉県認知症疾患医療センター 石川萌乃さん(精神保健福祉士) ・質問・感想シェア	①21人(うち講師3人、スタッフ等8人)
②7月30日(金) 13:30~16:00	②講演会・交流会「認知症の人をサポートするには」 文化センター206	
③8月10日(火) 10:00~11:30	③交流会「地域でできることを考えよう」 文化センター203	

認知症のコト ①

・認知症の人の家族の体験談、および専門の人の話が聞けてよかったとの感想が出された。また、終了後、地域包括支援センターへの個別の相談があった。

・改善点として、会場の関係で時間が短かったので、今後、日程は会場確保できてから確定した方がよい。

日時	内容	参加
子どもたちのコト 6月29日(火) 10:00~12:00	学習会「みんなが笑顔のまち子ども条例」を知ろう みんなで地域づくりセンター ・参加者による読み合わせとディスカッション	9人(うちスタッフ等4人)

まとめ 条例が発効された今、この「子どもの権利条例」をどう実現していくのか、まさに、「市民」「市」「学校」の連携が問われていると感じられた時間となった。誰かが考えてくれるのではなく、それぞれの立場で、自分たちでアイデアを出し合い、それを実現していくことが必要である。

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・**子どもサポートプロジェクト** ミーティング 6月6日(日)9:00~10:00 オンライン参加8人(うちスタッフ等3人) 1. 近況報告 2. 今後の予定

中高生のオープンスペース Raku まある 6月15日開催(第3火曜)

・**子ども支援団体交流会・円卓会議** 7月9日(金) 10:00~12:00 文化センター203号室(企画・準備)

「コロナ禍での子ども達、乳幼児親子の様子」

1. 情報提供 「小中学生の変化」教育委員会指導課職員 「乳幼児親子の変化」健康増進課職員

2. 小グループでディスカッションと子ども支援団体交流会

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

・みんなで災害支援ネットワークづくり 引き続き参加者情報シート集約

・みんなのコト みんなで災害支援を考えよう~障害のある人の支援 5月20日開催 ブログ掲載

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

・**大きなテーブル 福祉施設紹介・販売フェア**

日時 6/12(土) 10:30~14:30(少雨決行 当日は晴れ) 10:20~開会式、14:00~出店者交流会

会場 文化センター前広場(屋外・テント使用) 飲食なし、火気使用なし

主催 センター 共催 四街道市地域振興財団 協力 障害者支援課

※市内福祉団体等が実行委員となり、準備・片付け、コロナ対策など運営にあたった。

コロナ対策 マスク、検温・記名、アルコール消毒(各団体1名担当、受付2か所 駐車場側と図書館側)

広報 チラシ配布4000枚、市政だより5月15日号、当日の団体広報物(チラシ・ポスター・のぼりなど)

参加団体 14団体(福祉9団体、協賛5団体)

[福祉団体] (社福) 千葉県視覚障害者福祉協会 ワークショップ四街道、NPO 法人はちみつ 生活介護はちみつ、NPO 法人希望 地域活動支援センターどんぐり工房、子育てサポート てとて、NPO 法人みより福祉会 青空協同組合、(同法人) 障がい者就労・生活さぽーとピース、生活クラブ風の村 とんぼ舎さくら、就労定着支援事業所 スマイルハート、(社福) 高柳福祉会 たけのこ

[協賛団体] よつグルメ研究会、よつかいどう和棉ぼたけ、森林ボランティア 四街道フォレスト、ベーぐるきっちん、ブルーベリーのピンコロ農園

開催結果

・参加530人(出店団体含む) 天候にも恵まれ、多くの方に来場いただき出店団体と来場者の交流が図れた。

・出展団体は、商品や展示にそれぞれ工夫を凝らし、販売だけでなく来場者や団体同士とのコミュニケーションをとる姿が見られた。3月と4月、岐阜のいぶき福祉会を講師に「福祉」×「ものづくり」×「地域づ

くり」地域とつながるものづくり」「商品の価値を伝えるデザイン」のオンライン連続講座を行い、出店団体も参加し、実行委員会でも内容を共有してきたことで、地域とつながることを意識して取り組む姿勢が増したように思われた。

※振り返りは、7月2日(金)13:00～開く。

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタは、11月27日(土)を予定し、9月に実行委で決定・準備スタートをする。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」28号(6月発行、テーマは災害支援)を編集
- ・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。(いいね!765)
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。(掲載77団体)
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。
ZOOM会議の方法の支援、スマホ使い方相対相談(講座フォローアップ)など
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用にあたっては、利用者名簿記入、健康状態をチェック、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、着席の際に間隔をあけることなど、感染予防に配慮した。

令和3年度7月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176	150								
1日あたり来所者数 (人)	8	9	35	8								
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7								
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45								
新着情報 (件)	31	34	34	38								
相談件数 (件)	7	10	6	2								

・開館日 18日。 ・来所者数のうち、オンラインは4人 (子どもサポートプロジェクトミーティング)

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

日時	内容	参加
認知症のコト ②7月30日(金) 13:30~16:00	②「認知症の人をサポートするには」文化センター206 講演会「認知症になっても地域で楽しく生活するためにはどうしたらよいか。」講師 和田行男さん (一社)「注文をまちがえる料理店」代表 (株)大起エンゼルヘルプ取締役 交流会 自分たちでできること、やってみたいことを話し合おう。 質問・感想のシェア	21人 (講師2人、 スタッフ6 人)
③8月10日(火) ⇒中止	③交流会「地域でできることを考えよう」文化センター203	

[アンケートより] 良かったところ：自立支援の原点を知ることができた/差別のない世界を大切にしている/
自分の暮らす街で、認知症になってもずっと暮らせるようにするには何をすればよいか考えさせられた
活動に活かせること：関心を持って、受け止めること/隣り近所の人との交流を積極的に取る/認知症になってもちよつとしたお手伝いでいきいきとその人らしい生活ができる

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・子どもサポートプロジェクト

ミーティング7月9日(日)20:00~21:00 オンライン参加7人(うちスタッフ等3人) 子ども支援団体交流会報告で、プロジェクトにも興味を持った方も多いため、次回のミーティングにお誘いしたい。
中高生のオープンスペースRaku まある 7月20日開催(第3火曜)

・第9回子ども支援団体交流会・円卓会議

日時	内容	参加
7月9日(金) 10:00~12:00 文化センター 203号室	<p>「コロナ禍での子ども達、乳幼児親子の様子」</p> <p>1. 情報提供 「小中学生の変化」教育委員会指導課長 飯村典秀さん 地域でできること：コロナによる風評被害の防止。子どもたちの見守り、挨拶、学校への理解をいただきたい。</p> <p>「乳幼児親子の変化」四街道市保健センター保健師 田中茉莉さん 地域でできること：孤立しがちな親子が増えていると思われるが、検診等ですべてのケースを把握することが難しいため、地域や民生委員さんなどの声掛けや地域の居場所を検診等で紹介することによって必要な支援につながればよい。</p> <p>2. 小グループでディスカッションと交流会 3. 子どもサポートプロジェクトが実施したアンケート調査報告 「コロナ禍での子どもの声」アンケート(調査期間：6月12日~25日 方法：オンラインフォーム 回答28件)を報告。 4. 質疑応答 5. 交流会</p>	22人(スタッフ3人)

参加団体 四街道レクリエーション協会、旭ヶ丘みらい食堂、ファミリーホーム「実感デイズ」、子育てサポートとして、よつかいどう mamamo、四街道市社協、旭中地区社協、千代田中地区社協、西中地区社協、四街道プレーパークどんぐりの森、四街道子どもネットワーク、四街道市子供会育成連合会、愛国学園高校、子どもサポートプロジェクト、四街道市教育委員会、四街道市保健センター

[参加者感想] 子どもたちの状況がよくわかった/他の団体と交流を深めることができた/新たなつながりが増えた/コロナ禍での親子との関わり方、遊びや話を聞くことへ役立てたい

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

- ・みんなで災害支援ネットワークづくり 引き続き参加者情報シート集約
- ・みんなのコト みんなで災害支援を考えよう~障害のある人の支援を受けて、次回を計画する。

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

・福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」

日時 6月12日(土) 10:30~14:30(少雨決行 当日は晴れ) 10:20~開会式、14:00~出店者交流会
会場 文化センター前広場(屋外・テント使用) 飲食なし、火気使用なし、コロナ対策(検温・記名等)実施
振り返り7月2日 参加530人(出店団体含む) 売上420,860円

[出展団体アンケート結果] 大変良かった9、良かった2 よかったとは言えない1

感想：コロナ禍にも関わらず、にぎわっていた/利用者の方も参加できお客様と関わることができた/活動を知れる場、団体同士がつながる場

団体にとってのメリット：活動のアピールができた/商品を知ってもらうよいきっかけになった

- ・コロナ禍でイベントになかなか参加する機会がない中で、来客も来てよいイベントになった。情報交換や

団体同士のコラボを目指すため、ネットワークをつくろうという意見が出されリストの準備を進めた。
ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする
ちばユニバーサル農業フェスタは、11月27日(土)を予定、9月1日に実行委で決定・準備をスタートをする。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」29号編集(9月発行、テーマは環境「捨てない暮らしその先に」)
- ・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。(いいね!764)
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。(掲載76団体)
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。(開催した講座のオンライン配信の検討・準備など)
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用にあたっては、利用者名簿記入、健康状態をチェック、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、着席の際に間隔をあけることなど、感染予防に配慮した。

令和3年度8月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176	150	77							
1日あたり来所者数 (人)	8	9	35	8	5							
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7	5							
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45	18							
新着情報 (件)	31	34	34	38	35							
相談件数 (件)	7	10	6	2	4							

・開館日 16日。 ・来所者数のうちオンラインはなし。

・緊急事態宣言（8月2日～31日、その後9月12日まで延長）を受けて、開館時間は火曜日～金曜日 9:00～17:00、土曜日は休館、みんなのテーブル（ミーティングテーブル）は、期間中、一般の利用はなしとした。このことについて、ホームページ、Facebook、センター掲示、留守番電話でお知らせした。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

日時	内容	参加
災害支援のコト 9月17日(金) 13:30-16:30 ➡延期	障害のある人の支援2「福祉避難所って？」(企画・準備) 1)今、なぜ？福祉避難所なのか 前回の振り返りと市内の福祉避難所の状況について 2)講演「福祉避難所のリアル」福祉楽団 飯田大輔さん 3)グループワーク「障害者のための避難所を考える」 4)グループごとの発表	文化センター 203
認知症のコト ②7月30日(金) 13:30～16:00	②「認知症の人をサポートするには」文化センター206 講演会「認知症になっても地域で楽しく生活するためにはどうしたらよいか。」講師 和田行男さん (一社)「注文をまちがえる料理店」代表、(株)大起エンゼルヘルプ取締役	
③8月10日(火) ➡中止	③交流会「地域でできることを考えよう」文化センター203	

③9月28日(火) 10:00~11:30	和田さん講演会振り返りの会・おしゃべり会を新たに計画 その後、感染拡大、緊急事態宣言が9月12日までの延長を受けて	
10月8日(金) 19:00~20:00	⇒9月28日は中止とした。 10月8日はオンラインで開催予定。	

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・子どもサポートプロジェクト

中高生のオープンスペース Raku まある 8月17日開催(第3火曜)

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

- ・みんなで災害支援ネットワークづくり 引き続き参加者情報シート集約

アートを活かしたまちづくりについて、具体的なアクションに向けてアイデアを出し合い実施する。

・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり 第2弾

ワークショップ「まちにとけこむアート活動〜アクションプランを考える」

11月13日(土)(予定) 10:00-12:00

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

・福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」 日時 6月12日(土) 会場 文化センター広場で開催

その後の動き 実行委員となった福祉団体メンバーが、情報共有や団体同士の連携を目指し、Facebook グループを活用しネットワークをつくった。

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタは、11月27日(土)を予定、9月1日に実行委で決定・準備をスタートする。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」29号編集(9月2000部発行、テーマは「捨てない暮らし」のその先に)
- ・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。(いいね!768)
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。(掲載76団体)
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
(緊急事態宣言を受けて、開館時間変更について、掲示、ホームページ、Facebookへの掲載をした)
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。('助成金活用セミナー'10月5日オンラインで開催に向け、事前にオンライン講習会を企画した)
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用 緊急事態宣言期間により一般の利用受付は行わなかった。

令和3年度9月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176	150	77	51						
1日あたり来所者数 (人)	8	9	35	8	5	3						
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7	5	7						
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45	18	27						
新着情報 (件)	31	34	34	38	35	30						
相談件数 (件)	7	10	6	2	4	4						

- ・開館日 17日 ・来所者数のうちオンライン 14人
- ・緊急事態宣言 (9月1日～12日、その後30日まで延長) を受けて、火曜日～金曜日 10:00～14:00 電話対応、土曜日は休館、みんなのテーブル (ミーティングスペース) も、期間中、一般の利用はなしとした。9月1日と13日からの宣言延長、10月1日からの窓口業務再開について、ホームページ新着情報「重要なお知らせ」、Facebook ページ、センター入口ドア掲示、留守番電話などでお知らせした。
- 【講座等の中止および延期について】
- ・9月7日、10月5日に開催予定だった「助成金活用セミナー①②」は、①10月5日に、②を10月20日に変更した。また、10月5日に向け9月29日に実施予定だった、オンライン講習会を 10月1日に延期した。
- ・9月17日開催予定だった「災害支援のコト 障害のある人の支援2『福祉避難所って?』」は、中止 (延期) として、申込者への連絡を行い、講師とも次の開催予定について相談し11月10日 (水) に決定した。(コロナの感染拡大の状況により、オンライン開催も検討することとした)
- ・9月28日開催予定だった「和田行男さん講演会 振り返りの会・おしゃべり会」は、中止とし、オンライン開催の10月8日 (金) 19:00～20:30のみ開催することとした。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

- 市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。
- 市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。
- 市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

日時	内容	場所
災害支援のコト 9月17日(金) 13:30-16:30 緊急事態宣言中につき ⇒中止 (延期) 11月10日 (水)	障害のある人の支援2「福祉避難所って?」(企画・準備) 1) 今、なぜ? 福祉避難所なのか 前回の振り返りと市内の福祉避難所の状況について 2) 講演「福祉避難所のリアル」(社福)福祉楽団 理事長 飯田大輔さん 3) グループワーク「障害者のための避難所を考える」 4) グループごとの発表 ・申込みが会場の定員30名を超えた時は、206会議室会場とビデオ上	文化センター

決定 13:30-16:30	映をつなぎ、センターでの受講として対応する。講師と相談してコロナの状況によりオンライン開催とすることとした。 ・Facebookで9月17日中止連絡、11月10日再開の連絡・広報 ・参加申込み者に対して、延期、再開の連絡をした。	206
認知症のコト ②7月30日(金) 13:30~16:00 ③8月10日(火) ⇒中止 ③9月28日(火) 10:00~11:30 ⇒中止 10月8日(金) 19:00~20:30	②「認知症の人をサポートするには」文化センター206 講演会「認知症になっても地域で楽しく生活するためにはどうしたらよいか。」講師 和田行男さん (一社)「注文をまちがえる料理店」代表、(株)大起エンゼルヘルプ取締役 ③交流会「地域でできることを考えよう」文化センター203 「和田さん講演会 振り返りの会・おしゃべり会」として新たに計画 ・その後、感染拡大を受けて9月28日も中止とし、Facebookで案内をした。 ・10月8日はオンライン(ZOOM)で開催する	

助成金活用セミナー 地域に活動をつくりだす

日時	内容	場所
①9月7日(火) ⇒変更 10月5日(火) 13:30~16:00 ・9月29日 10月1日 オンライン講習会 10:00-12:00	1. 助成金活用 事例報告 ・2020年度コラボ制度採択事業 旭丘子ども食堂 地域・山梨小、みそら小との連携 ・休眠預金コロナ緊急「キッチンカーでGO！」 こども食堂&青空カフェ ・NPO法人ワーカーズコレクティブういず(柏市) 2. 「コラボ四街道」制度説明 3. その他助成制度の資料提供 4. 質疑応答	文化センター 203とオンライン併用
②10月5日(火) 10月20日(水) 13:00~15:30	「一歩踏み出すために一事業計画をたてる」 申請書に必要な事業計画を作成する	
③個別相談		

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・子どもサポートプロジェクト

中高生のオープンスペース Raku まあるは、9月21日感染予防をしながら小規模に開催(毎月第3火曜)
ちばユニバーサル農業フェスタに申込み、昨年に引き続き出展し活動のアピールをすることになった。

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

・みんなで災害支援ネットワークの会 学習会（企画・準備・講師との調整など）

日時	内容	場所
11月16日（火） 13:30～16:30	<p>第3回「みんなで災害支援ネットワーク」学習会 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. センターの災害支援に関する取り組みと今回の学習会の目的の説明 2. 横田代表による講演 「支援のために必要なこと」（仮題） <ol style="list-style-type: none"> ①常総市の特徴・被害の実情 ②たすけあいセンターJUNTOS の設立の経緯と活動内容 ③地域の団体間の連携や協力について ④参加者からの質疑応答 3. 参加者のワークショップ（グループに分かれて） <ul style="list-style-type: none"> ・講演を聞いての感想、災害支援について何ができるか ・災害支援ネットワークの連携について 4. 「みんなで災害ネットワーク」今後の予定 <p>講師：横田 能洋さん（NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ、たすけあいセンター「JUNTOS」代表）</p> <p>※災害支援ネットワーク：「人と人、地域、団体や組織が互いに関心を持ち、いざというときに支え合える緩やかな関係をつくろう、もしも災害が起きた時に自分や団体のできることを意識し、それを発信しよう」と昨年11月に立ち上がり、情報交換や学習会を行う。</p>	文化センター203

アートを活かしたまちづくりについて、具体的なアクションに向けてアイデアを出し合い実施する。

・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり 第2弾

ワークショップ「まちにとけこむアート活動～アクションプランを考える」

日時	内容	場所
11月13日（土） 10:00-12:00	<p>【これまでの経過】昨年開催したアート講座第1回では、美術などのアートを福祉施設や発達障害の子ども達、環境保護などに活かして活動している、こまちだたまおさんの活動内容をお聞きし、四街道でのアートをいかしたまちづくりのアイデアの種を出しあった。</p> <p>○第2回は、第1回講座の振り返りを行い参加者で意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四街道でのアートを活かしたまちづくり」アクションプラン検討 ・プランの具体化と実施体制などのアクションプランを考える ・講師：こまちだたまおさん（御領徳子さん） <p>たまあーと創作工房 代表、http://www.tamart.net/</p>	わろうべの里 わろーびんぐ ほーる

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

- ・福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」 日時 6月12日（土）会場 文化センター広場で開催
その後、実行委員となった福祉団体が、情報共有や団体同士の連携を目指しFacebook でネットワークした。
また、ユニバーサル農業フェスタでも実行委員として活動している。

ちばユニバーサル農業フェスタを 地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタ2021in 四街道 9月1日に実行委員会で決定・準備をスタートした。

日時 11月27日（土）10:00-14:00（開会式9:50）

会場 四街道市文化センター 広場（屋外・少雨決行）

主催 実行委員会（事務局：地域創造ネットワークちば） 四街道市からユニバーサル農業を発信

協力 みんなで地域づくりセンター、四街道市地域振興財団、千葉県障害者就労事業振興センター

後援 千葉県、四街道市教育委員会、四街道市社会福祉協議会、千葉県生活協同組合連合会

予算 協賛金3団体から と出展料1団体2000円（事業高1億以上は10000円）で運営

コロナ対策 感染予防対策のガイドラインと、コロナの状況による中止の判断基準を決定

趣旨 ちばユニバーサル農業フェスタは、千葉県内の農地を守ることを目的として、農業者、地域住民、障がい者、高齢者、子どもなど、「みんなで関わる農業＝ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供するフェスタです。

昨年に引き続き、コロナ禍の影響で販売経路を絶たれてしまった農業関係、福祉団体に焦点を絞り、農業の大切さを伝え、福祉団体の活動と製品をご紹介します販売会を行います。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

・情報誌「みんなで」29号編集

9月2000部発行、テーマ「捨てない暮らしのその先に」

・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。

Facebook ページ 9月末 いいね!768、 月間投稿数 7件

・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。（テーマは、よろこび）
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。

・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。

掲載76団体

・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。

緊急事態宣言を受けて、「開館時間変更」について、ホームページ、Facebookとともに、掲示した。

・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。

「助成金活用セミナー」10月5日オンラインで開催に向け、事前にオンライン講習会10月1日を企画した

・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

【ブログによる発信】 データ Woad 版添付

9月6日「みんなで」もう一つのストーリー

第10回 壊してみよう、直してみよう ～四街道おもちゃ病院～

<http://minnade.org/blog/2021/09/post-444.shtml>

9月6日 第11回 お洋服を通じて人の役に立つ 「ひみつのおしゃれ工房」

<http://minnade.org/blog/2021/09/11.shtml>

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

・センターのミーティングスペースの利用 緊急事態宣言期間により一般の利用受付は行わなかった。

令和3年度10月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176	150	77	51	158					
1日あたり来所者数 (人)	8	9	35	8	5	3	8					
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7	5	7	14					
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45	18	27	83					
新着情報 (件)	31	34	34	38	35	30	31					
相談件数 (件)	7	10	6	2	4	4	10					

- ・開館日 19日 ・来所者数のうちオンライン 21人
- ・緊急事態宣言が10月1日から解除され、開館時間が通常にもどった。火曜日～金曜日、第1・3土曜日 9:00～17:00、みんなのテーブル（ミーティングスペース）は、10人程度の利用とした。
- ・センター窓口業務の再開について、ホームページ新着情報「重要なお知らせ」、Facebook ページ、センター入口ドア掲示、留守番電話などでお知らせした。

【講座等の中止および延期について】

- ・9月7日、10月5日に開催予定だった「助成金活用セミナー①②」は、①10月5日に、②を10月20日に変更して実施、10月5日に向け9月29日に実施予定だった、オンライン講習会を10月1日に実施した。
- ・9月17日開催予定だった「災害支援のコト 障害のある人の支援2『福祉避難所って?』」は、中止（延期）として、講師とも次の開催予定について相談のうえ11月10日（水）に会場での開催として、参加呼びかけ・講座準備を行った。
- ・9月28日開催予定だった「和田行男さん講演会 振り返りの会・おしゃべり会」は中止とし、オンライン開催の10月8日（金）19:00～20:30のみ実施した。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取り組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

日時	内容	参加
災害支援のコト 9月17日(金) 13:30-16:30	障害のある人の支援2「福祉避難所って?」(企画・準備) 1)今、なぜ? 福祉避難所なのか 前回の振り返りと市内の福祉避難所の状況について	
緊急事態宣言中に	2)講演「福祉避難所のリアル」(社福)福祉楽団 理事長 飯田大輔さん	

<p>つき ⇒中止 (延期) 11月10日(水) 13:30-16:00 文化センター206 (広報・準備)</p>	<p>3)グループワーク「障害者のための避難所を考える」 4)グループごとの発表 ・申込みが会場の定員30名を超えた時は、206会議室会場とビデオ上映をつなぎ、センターでの受講として対応するとしたが、会場が定員の100%利用となったため、会場で行うことなど、講師と相談して開催の準備をした。(コロナの状況によりオンライン開催とする) ・11月10日開催について、Facebookやチラシ、福祉避難所への案内、電話連絡など、参加の呼びかけを行った。(スタッフ含め、参加申し込み44人)</p>	
<p>認知症のコト ②7月30日(金) 13:30~16:00 ③8月10日(火) ⇒中止 ③9月28日(火) 10:00~11:30 ⇒中止 10月8日(金) 19:00~20:30</p>	<p>②「認知症の人をサポートするには」文化センター206 講演会「認知症になっても地域で楽しく生活するためにはどうしたらよいか。」講師 和田行男さん (一社)「注文をまちがえる料理店」代表、(株)大起エンゼルヘルプ取締役 ③交流会「地域でできることを考えよう」文化センター203 中止 「和田さん講演会 振り返りの会・おしゃべり会」 「振り返りの会・おしゃべり会」として新たに計画。その後、感染拡大を受けて9月28日も中止とし、10月8日オンライン(ZOOM)で開催した。 内容 ○講演会の振り返りをしながら、各自が認知症に触れた経験などから、認知症についてどのように感じているかを話し合った ・身近な人が認知症の診断を受けたことがあるか/重症度や環境で支援の違いはあるか/自分が認知症になるのはこわいですか/親が認知症になった時に誰にも話せなかったという人が多くいる/まだまだ認知症という病気が特別な病気という認識がつよい ○今後、地域でどんなことがあったらよいか ・認知症が日常の延長線上に存在していると思えるようになったらいい/子どもたちには(子どもの時から)「人は迷惑を掛け合って支え合って生きている」と伝えていこう/「助けて」を気軽に言える関係づくりができればいい。 ・認知症の方の気持ちがわからないので教えてもらう、買い物などに同行して先生になってもらうなどの疑似体験会やVR体験があったら参加したい。 ・お手伝い(サポート)マークをつくる/イベントなどで参加者を集めて認知症知ってもらう場をつくる/岩淵薬品のアプリを利用するなど</p>	<p>参加 8人(うちスタッフ6人)</p>

助成金活用セミナー 地域に活動をつくりだす

日時	内容	参加
<p>①9月7日(火) ⇒変更 10月5日(火) 13:30~16:00</p>	<p>1. 助成金活用 事例報告 ・休眠預金コロナ緊急「キッチンカーでGO！」 こども食堂&青空カフェ NPO 法人ワーカーズコレクティブういず(柏市)</p>	<p>参加 参加者合計28人 オンライン10人(うちスタッ</p>

<p>文化センター203と オンライン併用 (事例報告2名中1 名はオンライン)</p> <p>・9月29日 10月1日 オンライン講習会 10:00-12:00 於 センター</p>	<p>※休眠預金活用法に基づく新型コロナウイルス対応緊急支援助成金事業 公益財団法人「ちばのWA地域づくり基金」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度みんなで地域づくり事業提案制度(コラボ四街道)採択事業 旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業 地域・山梨小、みそら小との連携 2. 「コラボ四街道」制度説明 政策推進課 橋本さんから 3. その他助成制度の資料提供 <p>[アンケート結果] 大変満足1名、満足6名、普通1名、不明1名 よかったこと ・様々な助成金について情報を得ることが出来た。今現在助成金を利用されて いる方の課題について話を聞くことができた。 ・助成金活用の具体的、公共性のある事例があり、理解しやすかった。 ・幼稚園の子どもがいるので、お迎えの時間にかぶってしまうのですが、 オンラインということで時間の節約ができました。</p>	<p>フ等6) 会場18人(う ちスタッフ等 6人)</p> <p>オンライン講 習会 参加1人</p>
<p>②10月5日(火) 10月20日(水) 13:00~15:30</p>	<p>「一歩踏み出すために一事業計画をたてる」～申請書に必要な事業計画を 作成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コラボ四街道」申請書の書き方のポイントについて ・事業企画提案 作成 4団体 <p>それに対する参加者からの質問やアドバイス(継続して事業を進めるた めの資金の確保策や他団体との連携・協働の可能性への質問などがあり、 企画提案書はブラッシュアップされた)</p> <p>→参加者から今年のコラボ四街道への申請は出なかったが、今後の事業企 画に役立てられることと思われる。</p>	<p>参加9人 オンライン2 人 会場7人(う ちスタッフ等4 人)</p>
<p>③個別相談</p>		
<p>④プレプレゼン</p>	<p>コラボ四街道の申請を行った団体に対して実施予定(1月)</p>	

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・**子どもサポートプロジェクト** 子どもに関わる団体や個人が参加し具体的に支援を行うことを目的として、場がある支援・場がなくてもできる支援(情報発信など)行う。

中高生のオープンスペースRakuまある 10月19日(火)開催

11月27日(土)ちばユニバーサル農業フェスタに出展し活動のアピールをする。

・**子ども見守りサポーター養成講座** 支援のあり方などを学び、地域で子どもを見守る大人を増やす。

日時	内容	参加
<p>12月11日(土) 13:00-15:00 オンライン</p>	<p>講演「北欧のとりくみに学ぶ～コドモ×オトナ×対話でつくる新しい社会～」(企画・準備)</p> <p>講師：佐藤裕紀さん 新潟医療福祉大学講師 専門は比較教育学、生涯学習論 四街道子ども記者クラブ設立時代表、 四街道出身</p> <p>13:00-14:00 講演 14:05-11:30 グループディスカッション 14:30-15:00 質疑応答 終了</p>	<p>オンライン 定員50人</p>

	・10月19日 講師との打ち合わせをオンラインで実施	
--	----------------------------	--

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて（平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す）

・みんなで災害支援ネットワークの会 学習会（企画・準備・講師との調整など）

日時	内容	参加
11月16日（火） 13：30～16：30 文化センター203	<p>第3回「みんなで災害支援ネットワーク」学習会 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」</p> <p>1. センターの災害支援に関する取り組みと今回の学習会の目的の説明 2. 講演 「常総災害からの復興と自主防災の取り組み」 ①常総市の特徴・被害の実情 ②たすけあいセンターJUNTOS の設立の経緯と活動内容 ③地域の団体間の連携や協力について ④参加者からの質疑応答 講師：横田 能洋さん（NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ、たすけあいセンター「JUNTOS」 代表）</p> <p>3. 参加者のワークショップ テーマ① 支援のかたち あなたの日頃の活動の資源を活かし、どんな支援ができるか。支援する時にどんなことが必要か。 テーマ② 支援には団体同士の連携・協働が必要。緊急時の繋がりにはどのようなツールがよいのか。</p> <p>4. 「みんなで災害ネットワーク」今後の予定</p> <p>※災害支援ネットワーク：「人と人、地域、団体や組織が互いに関心を持ち、いざというときに支え合える緩やかな関係をつくろう、もしも災害が起きた時に自分や団体のできることを意識し、それを発信しよう」と昨年11月に立ち上がり、情報交換や学習会を行う。</p>	文化センター203

アートを活かしたまちづくりについて、具体的なアクションに向けてアイデアを出し合い実施する。

・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり 第2弾

ワークショップ「まちにとけこむアート活動～アクションプランを考える」（企画・準備）

日時	内容	参加
11月13日（土） 13：30-16：30 わろうべの里わろーびんぐホール	<p>【これまでの経過】昨年開催したアート講座第1回では、美術などのアートを福祉施設や発達障害の子ども達、環境保護などに活かして活動している、こまちだたまおさんの活動内容をお聞きし、四街道でのアートをいかしたまちづくりのアイデアの種を出しあった。</p> <p>○第2回は、第1回講座の振り返りを行い参加者で意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四街道でのアートを活かしたまちづくり」アクションプラン検討 ・プランの具体化と実施体制などのアクションプランを考える ・講師：こまちだたまおさん（御領徳子さん） <p>たまあーと創作工房 代表、http://www.tamart.net/</p>	

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを

目指す

- ・福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」 日時 6月12日(土) 会場 文化センター広場で開催
ちばユニバーサル農業フェスタでも実行委員として活動している。

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタ 2021in 四街道 9月1日に実行委員会で決定・準備をスタートした。

実行委員会 10月1日(金)オンライン開催 11月4日(木)実行委員階+出展説明会・交流会(開催予定)

日時 11月27日(土) 10:00-14:00(開会式9:50)

会場 四街道市文化センター 広場(屋外・少雨決行)

主催 実行委員会(事務局:地域創造ネットワークちば)

協力 みんなで地域づくりセンター(四街道市政策推進課)、産業振興課

四街道市地域振興財団、NPO法人千葉県障害者就労事業振興センター

後援 千葉県、四街道市教育委員会、四街道市社会福祉協議会、千葉県生活協同組合連合会

ちば県民活動PR月間賛同行事

予算 協賛金(3団体)と出展料1団体2000円(事業高1億以上は10000円)、当日、出展団体から寄付募集

コロナ対策 感染予防対策のガイドラインと、コロナの状況による中止の判断基準を決定(11月15日判断)

屋外開催、会場での飲食なし(試食もなし)、密を避けるため販売のみ、ワークショップなし、会場受付で消毒・「健康チェックシート」記入、マスク着用、ブースでは遮蔽版(ビニールシート使用)

趣旨 ちばユニバーサル農業フェスタは、千葉県内の農地を守ることを目的として、農業者、地域住民、障がい者、高齢者、子どもなど、「みんなに関わる農業=ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供するフェスタです。

昨年に引き続き、コロナ禍の影響で販売経路を絶たれてしまった農業関係、福祉団体に焦点を絞り、農業の大切さを伝え、福祉団体の活動と製品をご紹介する販売会を行います。

広報 チラシ(制作 NPO法人はちみつ) 13000部(小学校全児童、自治会回覧、ポスティング、団体から)

四街道市市政だより 11/15号、千葉あそび(秋号)9/20 掲載 296ナビ、よつまちマルシェ(WEBページ)

WEB ちばユニバーサル農業(Facebook・ブログ)、センター(HP、Facebook)、

出展団体から、活動内容紹介・出展品目、写真など提出してもらい掲載する

各団体、個人からも情報発信、「いいね」「シェア」で拡散をお願いする

リリース 県庁記者クラブ15社に投込み 読売、千葉日報、産経、毎日、NHK等に訪問

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

・情報誌「みんなで」30号編集

・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。

Facebook ページ 10月末 いいね!768、 月間投稿数 15件

・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)

また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。

・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。

掲載76団体

・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。

緊急事態宣言解除を受けて、開館について、ホームページ、Facebookとともに、掲示した。

・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。

ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会 オンライン14人

「助成金活用セミナー」10月5日オンラインで開催5人、事前講習会10月1日実施1人参加
認知症のコト 講演会振り返りの会オンライン8人

「助成金活用セミナー」10月20日オンラインと併用で開催 2人参加

- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

【ブログによる発信】 データ Woad 版添付

10月15日 2021. 「助成金活用セミナー」～地域に活動をつくりだす ～ 第1回目

<http://minnade.org/blog/2021/10/2021.shtml>

10月21日 2021. 「助成金活用セミナー」～地域に活動をつくりだす ～ 第2回目

<http://minnade.org/blog/2021/10/post-447.shtml>

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること 相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用 緊急事態宣言解除により利用を再開した。
- ・千葉県地域ボランティア活動環境整備事業 担当者来訪 10月29日（金）
（オリパラボランティアをした人たちが地域でボランティア活動に参加するためのWEBサイト作成とマッチングを進めるための事業の説明と、市民活動支援センターを知るための聞き取り）

令和3年度11月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176	150	77	51	158	237				
1日あたり来所者数 (人)	8	9	35	8	5	3	8	114				
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7	5	7	14	14				
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45	18	27	83	77				
新着情報 (件)	31	34	34	38	35	30	31	39				
相談件数 (件)	7	10	6	2	4	4	10	8				

・開館日 20日 (通常のオープン日 17日、休館日に主催事業等を開催した日 3日)

・来所者数のうちオンライン 15人

・開館時間は通常どおり、火曜日～金曜日、第1・3土曜日 9:00～17:00、みんなのテーブル (ミーティングスペース) は、10人程度の利用とした。

【講座等延期後、開催について】

・9月17日開催予定だった「災害支援のコト 障害のある人の支援2」は、中止 (延期) 後、講師とも相談のうえ11月10日 (水) に会場で開催した。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

日時	内容	参加
災害支援のコト 9月17日 (金)	障害のある人の支援2「福祉避難所って？」 1) 今、なぜ？ 福祉避難所なのか 前回の振り返りと市内の福祉避難所の状況について	52人 (スタッフ等 9人) (うちオンライン参加1人)
緊急事態宣言中につき⇒中止 (延期) 11月10日 (水) 13:30-16:00 文化センター206	2) 講演「福祉避難所のリアル」(社福)福祉楽団 理事長 飯田大輔さん 3) グループワーク「障害者のための避難所を考える」 4) グループごとの発表 ワークショップで出された意見(4つに大別される) ①福祉避難所の情報が無いことによる意見 ②福祉避難所までの安全確保に関すること ③支援のマンパワーの確保 ④地域の理解と地域との交流	※当日取材 ケーブルネット 296 放映 12/1～15 14:00～ 21:00～

	<p>[参加者アンケートから] 一部を紹介</p> <p>【1】参加動機をお知らせください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・まちの課題として知識を深めたかった (回答数 14) ・福祉避難所の運営・あるいは利用者として不安や疑問があった (11) ・前回の「みんなのコト」に参加しさらに深めたいと思った (7) ・講師の飯田さんのお話に興味があった (5) など <p>【2】飯田さんのお話のなかで心に残ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てご自身の体験ということで「生の声」という印象。「大切なのは人とのつながり」という言葉が心に残った ・「福祉楽団が学んだ未来への備え 30」「自家発電につなげておきたい 15 のモノ」参考になった。冊子、素晴らしい <p>【3】講演やワークショップなどで、もっと知りたかったことや深めたかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に指定されているが、高齢者以外にも障害のある人もいらっしやって、どのような方を受け入れられるのかがさらに不安になった ・福祉避難所に地域住民がどのように関われるのか深堀できたらよい <p>【4】あなたや団体が災害支援に関して地域で実践できそうな事がみつかりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは設備を整え安心して受け入れられる状況をつくっていききたい ・日常的に地域の中に入り知っていただく事。福祉施設だからといって受け身ではなく、私達も地域の中で災害時何ができるか、強みを考えていくことができそう ・民生委員の立場で参加。日頃からしている活動の大切さを再確認することができました。声掛け、見守りなど・・・ 	
--	---	--

出された意見や疑問を、後日、市の福祉部門の担当者とヒアリングという形で意見交換する場を持った
(ブログに掲載 <http://www.minnade.org/blog/2021/12/post-450.shtml>)

助成金活用セミナー 地域に活動をつくりだす

日時	内容	参加
①9月7日(火) →変更 10月5日(火) 13:30~16:00 →9月29日 10月1日 オンライン講習会 10:00-12:00	1. 助成金活用 事例報告 ・休眠預金コロナ緊急「キッチンカーでGO!」こども食堂&青空カフェ NPO 法人ワーカーズコレクティブういず (柏市) ・2020年度みんなで地域づくり事業提案制度(コラボ四街道)採択事業 旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業 2. 「コラボ四街道」制度説明 政策推進課 橋本さんから 3. その他助成制度の資料提供	参加者合計 28人 ・オンライン 10人(うちスタッフ等6) ・会場、18人(うちスタッフ等6人)
②10月5日(火) 10月20日(水) 13:00~15:30	「一歩踏み出すために一事業計画をたてる」～申請書に必要な事業計画を作成する～ ・「コラボ四街道」申請書の書き方のポイントについて ・事業企画提案 作成 4団体	参加者合計 9人 ・オンライン 2人 ・会場 7人(うちスタッフ等4人)
③個別相談		
④プレプレゼン	コラボ四街道の申請を行った団体に対して実施予定 (2月4日)	

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・**子どもサポートプロジェクト** 子どもに関わる団体や個人が参加し具体的に支援を行うことを目的として、場がある支援・場がなくてもできる支援（情報発信など）行う。

中高生のオープンスペースRaku まある 11月16日(火)開催。11月27日(土)ちばユニバーサル農業フェスタに出展。オリジナルエコバッグと文具・リサイクルの絵本を販売し活動のアピールをした。

・**子ども見守りサポーター養成講座** 支援のあり方などを学び、地域で子どもを見守る大人を増やす

日時	内容	参加
12月11日(土) 13:00-15:00 オンライン	講演「北欧のとりくみに学ぶ～コドモ×オトナ×対話でつくる新しい社会～」(企画・準備) 講師：佐藤裕紀さん 新潟医療福祉大学講師(専門は比較教育学、生涯学習論 四街道子ども記者クラブ設立時代表、四街道出身) 13:00-14:00 講演 14:05-11:30 グループディスカッション 14:30-15:00 質疑応答 終了	

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて(平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す)

・**みんなで災害支援ネットワークの会 学習会**

日時	内容	参加
11月16日(火) 13:30~16:30 文化センター203	第3回「みんなで災害支援ネットワーク」学習会 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」 1. センターの災害支援に関する取り組みと今回の学習会の目的の説明 2. 講演 「常総災害からの復興と自主防災の取り組み」 講師：横田 能洋さん (NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ、たすけあいセンター「JUNTOS」代表) 被災者の困りごと・水害で明らかになった地域の課題・避難所や福祉避難所へのヒント・自主防災についてなど 3. 参加者のワークショップ ・自己紹介の後、ペットの避難、避難所のあり方や障害者・高齢者・外国人の避難を通して地域に求められることについて ・情報交換のツールとして何が良かったかについて 〔アンケート結果より〕(紙面回答 17、オンライン回答 2) 講演について ・大変参考になった(回答数 14) 参考になった(3) 難しかった・あまり興味が持てなかった(0) 無記入(1) 【2】とくに印象に残った点(複数回答) ・他団体との連携が重要なこと(回答数 14) ・災害時には広報や通信手段の確立していることが大変重要なこと(11) ・外国人に対する支援の内容と方法(回答数 11) ・やはり平時からの互いに顔の見える関係づくりが大切(11) ・災害時には長期にわたり国や自治体・社協とともに NPO や団体・地	30人(6人)

	<p>域に求められる支援がある (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所・在宅避難を選択した場合のメリット・デメリット (9) <p>【3】 今後のあなたの活動において災害支援に関してのあらたな意識づけや行動が見つかりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろからご近所や関連団体と良い関係を作っておくことが重要。 ・広報・通信手段の強化が特に大切で、今こそ検討すべき ・災害時の初期対応についてのフローチャートの作成 <p>【4】 ほかの団体と連携してやってみたいと思った支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会や民児協などと連携して対応すべき／ペットの講習会を開かせて頂きたい／自治会、社協、自治振興課、レクリエーション協会、公民館やわろうべの里／鹿放ヶ丘ふれあいセンターと一緒に支援をしたい <p>避難所運営委員会と関係団体や機関との交流と連携</p> <p>【6】 災害支援ネットワークの活動は、どんな内容を希望するか (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識を有する方による災害支援に関する講座 (8) ・参加者同士の自己紹介や情報交換 (5) ・実際に災害支援のネットワークの中で奔走し、活動した組織の講座 (5) 	
--	---	--

- ・千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議での事例発表 (当センターコーディネーター)
- 12月22日 (水) テーマ「災害支援」 テーマ「センターでの災害支援ネットワーク」 (10分+質疑5分)

アートを活かしたまちづくりについて、具体的なアクションに向けてアイデアを出し合い実施する。

- ・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり 第2弾
- ワークショップ「まちにとけこむアート活動～アクションプランを考える」

日時	内容	参加
11月13日 (土) 13:30-16:30 わろうべの里わろーびんぐホール	<p>【これまでの経過】 昨年開催したアート講座第1回では、アートを福祉施設や発達障害の子ども達、環境保護などに活かして活動している、こまちだたまおさんの活動内容をお聞きし、四街道でのアートをいかしたまちづくりのアイデアの種を出しあった。</p> <p>○第2回は、第1回講座の振り返りを行い参加者で意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四街道でのアートを活かしたまちづくり」アクションプラン検討 ・講師：こまちだたまおさん (御領徳子さん) <p>たまあーと創作工房 代表、http://www.tamart.net/</p> <p>〔アンケート結果から〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃、仕事と職場の往復では知り合えない方々のお話を伺えた。絵画が好きな自分でもアートは敷居が高いと感じてしまうが、頭を柔らかくして生活に取り入れたいという思いが強くなった。 ・自分のプランが具体的になった。参加者と共有できた。参加者のプランを聞いて新たなイメージがわいた。思いがある仲間と知り合えた。参加者のプランを聞いて視野が広がった。 	参加者14人 (うちスタッフ等3人)

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

・福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」 日時 6月12日(土) 会場 文化センター広場で開催
「大きなテーブル」の実行委員が、ちばユニバーサル農業フェスタでも実行委員として運営にあたった。

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

ちばユニバーサル農業フェスタ 2021in 四街道

実行委員会 11月4日(木)第3回実行委員会+出展説明会・交流会 (19団体が参加)

11月15日臨時実行委員会(コロナの状況を見て開催の判断)、11月26日前日準備

日時 11月27日(土) 10:00-14:00 (開会式9:50)

会場 四街道市文化センター 広場(屋外・少雨決行) 晴天で午後風が強かった

主催 実行委員会(事務局:地域創造ネットワークちば)

協力 みんなで地域づくりセンター、四街道市政策推進課、自治振興課、産業振興課

公益財団法人四街道市地域振興財団、NPO法人千葉県障害者就労事業振興センター

後援 千葉県、四街道市教育委員会、四街道市社会福祉協議会、千葉県生活協同組合連合会

ちば県民活動PR月間賛同行事

協賛 生活クラブ生協千葉(生活クラブ虹の街)、社会福祉法人生活クラブ(生活クラブ風の村)、

一般社団法人千葉県労働者福祉協議会、中央ろうきん(ボールペン200本提供)

予算 協賛金(3団体)と出展料1団体2000円(事業高1億以上は10000円)、当日、出展団体から寄付募集

コロナ対策 感染予防対策のガイドラインと中止の判断基準を決定(11月15日状況を見て判断)

屋外開催、会場での飲食なし(試食もなし)、密を避けるため販売のみ、ワークショップなし、会場受付で消毒・「健康チェックシート」記入、マスク着用、ブースでは遮蔽版(ビニールシート使用)

趣旨 ちばユニバーサル農業フェスタは、千葉県内の農地を守ることを目的として、農業者、地域住民、障がい者、高齢者、子どもなど、「みんなに関わる農業=ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供するフェスタです。

昨年に引き続き、コロナ禍の影響で販売経路を絶たれてしまった農業関係、福祉団体に焦点を絞り、農業の大切さを伝え、福祉団体の活動と製品をご紹介する販売会を行います。

広報 チラシ(制作 NPO法人はちみつ) 13000部(小学校全児童、自治会回覧、ポスティング、団体から)

四街道市市政だより 11/15号、千葉あそび(秋号)9/20 掲載 296ナビ、よつまちマルシェ(WEBページ)

WEB ちばユニバーサル農業(Facebook・ブログ) 出展団体から活動紹介・出展品目、写真など提出、センター(HP、Facebook)、出展団体もFacebookなどで広報。

リリース 県庁記者クラブ15社に投込み 5社訪問。東京新聞、毎日進軍イベント欄掲載

出展団体 24ブース(28団体)+文化センター入口前展示(政策推進課、自治振興課)

来場者数 1471人、他スタッフ170人 売上高合計1,083,480円(来場者・売上合計とも昨年度の約2倍)

・晴天で午後は風が強くなったが、多くの来場者があり出展団体の販売や紹介、団体同士や来場者との交流も進んだ。実行委員会メンバー、一般・学生ボランティアの協力などでスムーズな運営ができた。会場で転倒した方がおられ実行委員会でも対応にあたり幸い軽傷であったが、12月21日のまとめの実行委員会では、フェスタの運営について様々な点から振り返りを行う。

[出展団体アンケートから] 回答数24

・フェスタ全体の感想:大変よかった19、まあまあよかった5、よかったとはいえない0

理由:来場者が多かった/地域の方に知っていただく機会となった/市内の農家さん達を中心ににぎわっていた/いろいろな方とお話しできた

・団体にとってのメリットは?:地域とのつながりができた/来場者と楽しくふれあえた/他団体との交流が持てた/団体・活動のPR/コロナ禍でイベントがない中、来た人が楽しいと言ってくれた。世代が違う方たちと関わる事ができた。

- ・活動する上での課題は？：販路の拡大9、運営スタッフ6、農業・栽培技術4、その他3（会員の高齢化、若い人の参加、活動拠点）
- ・次年度以降の出展の意向：参加したい21、検討する3、参加しない0

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」30号発行（コロナ禍でも「今、できること」自治会回覧含め4500部）
- ・Facebookで、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。
Facebook ページ 11月末いいね!772、 月間投稿数 16件
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。（テーマは、よろこび）
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダー、助成金情報などを掲載した。
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。掲載76団体
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。
 - ・ちばユニバーサル農業フェスタ臨時実行委員会11月15日 オンライン14人
 - ・5月に北中地区社協から、高齢者の孤立を防ぐためのスマ・ホタレット講座の講師依頼などについての相談を受け、講師との調整や開催方法のアドバイスなどを行い、11月15日から（5日連続）開催されることになった。
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

【ブログによる発信】 データ Word 版添付

- 11月25日 四街道市指定の和良比小避難所開設・運営訓練に伺いました
<http://www.minnade.org/blog/2021/11/post-448.shtml>
- 11月29日 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」
<http://www.minnade.org/blog/2021/11/post-449.shtml>

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること

相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用 10月1日緊急事態宣言解除により利用を進めた。

令和3年度12月 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所者数 (人)	156	163	176	150	77	51	158	237	151			
1日あたり来所者数 (人)	8	9	9	8	5	3	8	14	9			
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7	5	7	14	14	12			
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45	18	27	83	77	65			
新着情報 (件)	31	34	34	38	35	30	31	39	24			
相談件数 (件)	7	10	6	2	4	4	10	8	5			

- ・開館日 18日 (通常のオープン日 17日、休館日に主催事業等を開催した日 1日)
- ・来所者数のうちオンライン 28人 (12/11 子ども見守りサポーター養成講座)
- ・開館時間は通常どおり、火曜日～金曜日、第1・3土曜日 9:00～17:00、みんなのテーブル (ミーティングスペース) は、密にならないよう注意して利用することとした。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

- 市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。
- 市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。
- 市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

日時	内容	参加
災害支援のコト 9月17日(金) 緊急事態宣言中につき⇒中止(延期) 11月10日(水) 13:30-16:00 文化センター206	障害のある人の支援2「福祉避難所って？」 1)今、なぜ？福祉避難所なのか 前回の振り返りと市内の福祉避難所の状況について 2)講演「福祉避難所のリアル」(社福)福祉楽団 理事長 飯田大輔さん 3)グループワーク「障害者のための避難所を考える」 4)グループごとの発表 ※当日取材 ケーブルネット 296「ふるさとチャンネル」 福祉避難所って？～地域づくりサロンみんなで災害支援を考えよう～ 放送 12月1日～15日 14:00～14:30 21:00～21:30 1月1日～1月9日 (再放送)	52人(スタッフ等 9人) (うちオンライン参加1人)

ブログ掲載

「福祉避難所って？」出された意見や疑問について、後日、市の福祉部門の担当者とヒアリングという形で意見交換する場を持ち、そのことも含めてブログに掲載した。

<http://www.minnade.org/blog/2021/12/post-450.shtml>

日時	内容	参加
①9月7日(火) ⇒変更 10月5日(火) 13:30~16:00 ・9月29日 10月1日 オンライン講習会 10:00-12:00	1. 助成金活用 事例報告 ・休眠預金コロナ緊急「キッチンカーでGO!」こども食堂&青空カフェ NPO 法人ワーカーズコレクティブういず(柏市) ・2020年度みんなで地域づくり事業提案制度(コラボ四街道)採択事業 旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業 2. 「コラボ四街道」制度説明 政策推進課 橋本さんから 3. その他助成制度の資料提供	参加者合計28人 ・オンライン10人(うちスタッフ等6人) ・会場18人(うちスタッフ等6人)
②10月5日(火) 10月20日(水) 13:00~15:30	「一歩踏み出すために一事業計画をたてる」～申請書に必要な事業計画を作成する～ ・「コラボ四街道」申請書の書き方のポイントについて ・事業企画提案 作成 4団体	参加者合計9人 ・オンライン2人 ・会場7人(うちスタッフ等4人)
③個別相談		
④プレプレゼン	コラボ四街道の申請団体対象 2月4日(金)13:30~ (企画・準備)	

・コラボ四街道採択団体交流会と決算書の書き方についての説明会 1月21日(金)10:00~ (企画・準備)

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援することについて

・子どもサポートプロジェクト 子どもに関わる団体や個人が参加し具体的に支援を行うことを目的として、場がある支援・場がなくてもできる支援(情報発信など)行う。
中高生のオープンスペースRaku まある 12月21日(火)開催

・子ども見守りサポーター養成講座 支援のあり方や視点などを学び、地域で子どもを見守る大人を増やす

日時	内容	参加
12月11日(土) 13:00~15:00 オンライン	講演「北欧のとりくみに学ぶ～コードモ×オトナ×対話でつくる社会～」 講師：佐藤裕紀さん 新潟医療福祉大学講師(専門は比較教育学、生涯学習論、四街道子ども記者クラブ設立時代代表、四街道出身) 13:00~14:00 講演 14:05~11:30 グループディスカッション 14:30~15:00 質疑応答 終了 内容 デンマークの教育制度、生涯学習などの取り組みから、日本における社会的包摂を目指した教育(生涯学習)へのヒントなどが話された。 [参加者アンケートより]印象に残ったキーワード ・上手に行かなくても大丈夫という安心が、挑戦やイノベーションの土台となっていく ・多層的な学びの場 ・自分で決めるしかけづくり ・エフタスコール、ホイスコール ・生産学校 ・生きた言葉による対話の重要性 ・支える側、支えられる側で分けない、立場を固定化しない社会的包摂 ・マイノリティー ・ヒューマンライブラリー	オンライン参加28人(うちスタッフ等6人) ※市外・県外からの参加もあり 子どもの居場所や学童保育、不登校支援、福祉や教育に関わる人などが参加
1月9日(土) 10:00-11:00	「北欧のとりくみに学ぶ」アフタートーク会 (12月の講座で参加者から複数、参加希望があり企画)	

オンライン	模擬ヒューマンライブラリー、意見交換	
-------	--------------------	--

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めることについて（平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す）

・みんなで災害支援ネットワークの会 学習会

日時	内容	参加
11月16日（火） 13:30～16:30 文化センター203	第3回 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」 1. センターの災害支援に関する取り組みと今回の学習会の目的の説明 2. 講演 「常総災害からの復興と自主防災の取り組み」 講師：横田 能洋さん（NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ、たすけあいセンター「JUNTOS」 代表） 3. ワークショップ ・避難のあり方や地域に求められることなど ・情報交換のツールとして何が良いかについて	参加者 30人 （うちスタッフ等6人）

⇒これを受けて、ネットワークメンバー同士の連絡、市民への情報発信などのツールについて、引き続き検討していく。（現在は、メンバーのメーリングリストと Facebook ページを活用している）

・千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議での当センターコーディネーター事例発表

12月22日（水）テーマ「地域の課題解決に向けた市民活動団体の連携を考える」14:00～16:00
報告 センターでの災害時ネットワーク（10分報告＋質疑5分）
「災害支援ネットワーク その時。連携の力で街を支えよう」 PDF 資料添付

アートを活かしたまちづくりについて、具体的なアクションに向けてアイデアを出し合い実施する。

・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり 第2回
ワークショップ「まちにとけこむアート活動～アクションプランを考える」

日時	内容	参加
11月13日（土） 13:30-16:30 わろうべの里わろーびんぐホール	○第1回講座の振り返りを行い参加者で意見を出し合う。 ・「四街道でのアートを活かしたまちづくり」アクションプラン検討 ・講師：こまちだたまおさん（御領徳子さん） たまあーと創作工房 代表	参加者 14人 （うちスタッフ等3人）

関連事項 昨年度10月の第1回講座以降、参加者などの関連でアート展やイベントなどが企画実施されている。

- ・子育てサポート てとて 森アート「みどりのまどからみえるもの」 令和2年11月（講師こまちだたまおさん）
- ・NPO法人はちみつ 「Honey come!! 2021」はちみつ はじめての さくひんてん
令和3年11月30日（火）～12月5日（日）四街道市民ギャラリー
- ・NPO法人みのり福祉会 「みたことがないアート展」
令和4年1月19日（水）～23日（日）佐倉市美術館3階市民ギャラリー

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

・福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」（次年度開催の企画・準備）

第20回「大きなテーブル」開催のための打合せ 12月21日（火）14:00～15:00

主催 これまでのセンター主催から実行委員会主催とする

※文化センター前広場使用料（掛かる場合は減免の可能性など）について確認する

実行委員会団体 はちみつ、ワークショップ四街道、どんぐり工房、ピース、青空協同組合、てとて

日時 第1希望5月21日（土） 第2希望6月11日（土）

開催場所 文化センター前広場（テント使用）参加団体数 15～17団体位を募集

参加費 2000 円～3000 円 次回実行委員会 3 月 10 日 (木) 13:30～

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートする

・ちばユニバーサル農業フェスタ 2021 in 四街道

日時 11 月 27 日 (土) 10:00-14:00 (開会式 9:50) 会場 四街道市文化センター広場 (屋外)

主催 実行委員会 (事務局: NPO 法人地域創造ネットワークちば) センターは、協力団体

当日取材 ケーブルネット 296 ふるさとチャンネルで放映

12 月 16 日 (木) ～12 月 31 日 (金) 時間 14:00～14:30 21:00～21:30 再放送 1 月 10 日～1 月 31 日

来場者数 1471 人、スタッフ等 170 人 売上高合計 1,083,480 円 (来場者・売上合計とも昨年度の約 2 倍)

振り返り (第 4 回実行委員会) 12 月 21 日 (火) 13:00～14:00

- ・来場者が多く福祉団体として活動の紹介ができた。地域社会との交流ができ、利用者さんも自主的に参加できた。
- ・対面での販売は 1 年ぶり以上で買う人が見えずに作りつづけてきたが、今回、販売でき全員がお客さんへの「ありがとう」を言うことができた。
- ・実行委員会で取り決め、昨年来コロナの対策をして開催し、団体同士の交流つながりができてきた。
- ・次年度、かなえたい社会に向けてどういうフェスタを開催するか、実行委員会で十分話し合い、運営上必要な改善点も検討する。

次年度開催候補日 第 1 希望 11 月 26 日 (土) 第 2 希望 11 月 19 日 (土)

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

- ・情報誌「みんなで」30 号発行 (コロナ禍でも「今、できること」自治会回覧含め 4500 部) 31 号編集
- ・Facebook で、センター事業・イベント等のお知らせ、報告などを掲載した。
Facebook ページ 12 月末いいね! 777、 月間投稿数 16 件
- ・ホームページ トップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくるとともに、四街道に関わる人「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)
また、事業・イベントのお知らせ・報告、イベントカレンダーなどを掲載した。
- ・団体情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。掲載 76 団体
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。
- ・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。
子ども見守りサポーター養成講座「北欧のとりにくみに学ぶ」をオンラインで開催した
また、講座開催に向け、ZOOM の使い方講習会を 3 回企画した (参加はなかった)
パソコン、スマホ・タブレットへの相談があり対応した。
- ・福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。
- ・みんなで地域づくり写真展 12 月 7 日 (火) ～13 日 (月) 会場: そごう千葉店地階ギャラリー (千葉市)
みんなで地域づくりセンターの取り組みを市外の人にも知っていただく機会として毎年実施している。
掲示内容: センター紹介、「みんなで」表紙、災害支援、子ども見守りサポーター養成講座ポスター
ユニバーサル農業フェスタ、政策推進課地域づくり係から事業紹介

【ブログによる発信】

12 月 3 日 福祉避難所って? <http://www.minnade.org/blog/2021/12/post-450.shtml>

12 月 17 日 ちばユニバーサル農業フェスタ 2021 開催しました

<http://minnade.org/blog/2021/12/2021-1.shtml>

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること

相談件数は上記

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

ミーティングスペース利用数は上記

令和3年度 みんなで地域づくりセンター業務スケジュール ◆オンライン開催 ★は市政だより掲載予定 2022.01

地域課題への取組みのプロデュース 地域づくりを担う主体のネットワーク				各種講習会				情報の収集、把握、発信				相談対応	オンライン コミュニ ケーショ ン支援	その他				
分野・業種を超えた地域資源のつながり・連携 多様な人や団体が地域づくりに参加する企画				地域課題を知っ て解決を考える				効果的な方法を選択										
自治 情報 交換会	支え 合い ／高 齢者 支援	市内 在住 外国 人の 共生	子ども 支援 ネット ワーク 子ども サポート プロ ジェク ト	ア ー ト に と け こ む	大 き な テ ー プ ル ／ ユ ニ バ ー サ ル 農 業 フ ェ ス タ	災 害 支 援 ネ ッ ト ワ ー ク (普 段 か ら 声 を 掛 け 合 え る 関 係 づ り)	地 域 課 題 学 習 会 (市 の 施 策 ・ 事 例 か ら 学 ぶ) ～ ま ち の 出 来 事 を 自 分 ゴ ト に ～ 「 み ん な の ゴ ト 」	助 成 金 活 用 (コ ラ ボ 四 街 道 サ ポ ー ト)	ス キ ル ア ッ プ ・ ワ ン ポ イ ン ト 講 座 ／ み ん	団 体 情 報	地 域 づ り 情 報 ／ セ ン タ ー 掲 示	情 報 誌 「 み ん な で 」 年 4 回 発 行	HP ◎ ブ ロ グ ○ FB △ イン ス タ ・ ツ イ タ ー ▼	み ん な で カ レ ン ダ ー	随 時 ・ 会 計 は 日 程 調 整	ZOOM 会 議 支 援 な ど	イン タ ー ン シ ッ プ ・ 視 察	
4月	(コ ロ ナ 禍 で 開 催 で き ず)			(アイ デ ア 話 し 合 い)	◆4/17商 品 の 価 値 を 伝 え る デ ザ イ ン	(ネ ッ ト ワ ー ク づ り)				新 団 体 情 報 更			◎ ○ △				必 要 に 応 じ た サ ポ ー ト	
5月					★5/15		みんなのゴ ト 【災 害 支 援 の ゴ ト】 5/20障 害 の あ る 人 の 支 援						◎ ○ △				(地 区 ス マ ホ 講 座 相 談 対 応)	
6月			★6/15		大 き な テ ー プ ル 6/12 ※1日、 屋 外		【認 知 症 の ゴ ト】 6/22①学 習 会 【子 ど も た ち の ゴ ト】 6/29子 ど も 条 例 を 知 ろ う					28号 そ の と き の た め に	◎ ○ △ ▼					6/11 zoom サ ポ ー ト
7月			7/9子 ど も 支 援 団 体 交 流 会				【認 知 症 の ゴ ト】 7/30② 講 演 会 ・ 交 流 会 「認 知 所 の 人 を サ ポ ー ト す る に は						◎ ○ △					
8月						講 演 会 支 援 の 事 例 ネ ッ ト ワ ー ク づ り	【認 知 症 の ゴ ト】 8/10③ 地 域 で で き る こ と						◎ ○ △					
9月					★ 9/1 5		【災 害 支 援 の ゴ ト】 9/17障 害 の あ る 人 の 支 援 ②福 祉 避 難 所	助 成 金 活 用 9/7 事 例 報 告、 コ ラ ボ 四 街 道 制 度 説 明 他				29号 捨 て ない 暮 ら し そ の 先	◎ ○ △					
10月			バス見 学 (東 葛 の 子 ど も 食 堂)				◆10/8「 和 田 さ ん 講 演 会 振 り 返 り ・ お し ゃ べ り 会 」	◆併 用 10/5 ① 事 例 報 告、 コ ラ ボ 四 街 道 制 度 説 明 ◆併 用 10/20 ② 事 業 計 画					◎ ○ △				10/1 Zoom 講 習	
11月	(市 ・ 自 治 会 回 覧 再 開)	(小 学 校 異 文 化 授 業 の	★11/15	11/ 13 ア ー ト 講 座	11/4出 展 団 体 交 流 会 ★11/15 11/27ユ ニ バ ー サ ル 農 業 フ ェ ス タ	11/16講 演 「常 総 水 害 に 学 ぶ 災 害 支 援 の あ り か た」	11/10【災 害 支 援 の ゴ ト】 障 害 の あ る 人 の 支 援 ②福 祉 避 難 所	○相 談 随 時					◎ ○ △					
12月			◆12/11 見 守 り サ ポ ー タ ー 養 成 講 座 「北 欧 の 取 組 み に 学 ぶ …」		12/21 フ ェ ス タ 振 り 返 り 大 き な テ ー プ ル 次 年 度 打 合 せ	(◆12/22 県 ・ 支 援 組 織 ネ ッ ト ワ ー ク 「災 害 支 援」 事 例 発 表)					12/ 7～ 13 そ ご う 写 真 展	30号 コ ロ ナ 禍 で も 今 で き る こ と	◎ ○ △ ▼				12/1 に 向 け Zoom 講 習 (企 画)	
1月			◆1/9ア フ タ ー ト の 会 1/18子 サ ポ ー ミ ン グ			(◆1/21県 ・ 合 同 研 修 災 害 支 援「三 者 連 携」)		1/21コ ラ ボ 四 街 道 交 流 会 ・ 決 算 書 の 書 き 方 説 明 会					◎ ○ △					1/2 6浦 安 市
2月								2/4コ ラ ボ 四 街 道 プ レ ゼ ン	○				◎ ○ △					
3月									○	更 新 団 体 情 報		31号	◎ ○ △					

コラボ四街道ガイドブック 2022

みんなで地域づくり事業提案制度募集要項

四街道市

募集期間
2021. 10. 1|金|-11. 5|金|

意見交換等期間
2021. 11. 5|金|-11. 26|金|

最終提出期限
2021. 12. 2|木|

公開プレゼンテーション
2022. 2 月中旬頃[予定]

1 みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）とは

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）は、NPO 法人、ボランティア団体、自治会などの自主的に地域づくり活動を行う市民団体が、よりよい地域づくりをめざして、地域にある課題の解決につながる事業を提案し、主体的に、または市と協力して事業を実施する制度です。市民団体及び市は人材、技術、場所、資金等の社会資源を持ち寄ることで事業の実現性を高め、魅力ある地域づくりを実践していきます。

2 提案できる団体は

提案できる市民団体は、次の①～③のすべての要件に該当する団体とします。

- ①四街道市内を主な活動範囲としていること
- ②運営及び会計処理が適正に行われていること
- ③三人以上で組織されていること

*NPO、事業者等も対象になります

3 対象となる事業は

みんなで地域づくり事業の対象となる事業は、次の①から③のすべての要件に該当する事業で、かつ④から⑦までのいずれかに該当するものとします。

- ①地域づくり、地域課題等の解決につながるもの
- ②市民ニーズに柔軟に対応し、具体的な成果が期待できるもの
- ③事業計画及び予算の積算が適正であるもの
- ④市民の地域への参画が促進されるもの
- ⑤市と協力して実施することにより、市及び市民団体双方の事業の推進に相乗効果が期待できるもの
- ⑥市民団体の基盤強化や人材育成につながるもの
- ⑦事業の目的意識や役割分担が明確で地域づくりにつながるもの

ただし、次のいずれかに該当する事業は対象外とします。

- ①現在本制度の事業として実施されている事業で三年を超えるもの
- ②営利のみを目的としたもの
- ③特定の個人や市民団体のみが利益を受けるもの
- ④調査研究のみを目的としたもの
- ⑤交流または親睦のみを目的としたもの
- ⑥宗教活動または政治活動を目的としたもの
- ⑦特定の公職の候補者もしくは公職にある者または政党に関係するもの
- ⑧暴力団または暴力団員と関係するもの
- ⑨公序良俗に反するもの
- ⑩国、県及びそれらの外郭団体等から助成を受けているもの
- ⑪既存制度で対応できるもの
- ⑫その他市長が適当でないと認めるもの

4 事業部門について

事業の実施にあたって、市民団体が提案できる部門は、以下のとおりとなります。

①地域づくり部門

地域づくりにつながる取組や催し物を行う事業部門です。

【具体例】

- ①環境美化・里山保全（公共施設の環境美化活動、ほたる観察会）
- ②賑わい（グルメフェスティバル開催、フリーマーケット開催）
- ③健康（健康ウォーキングマップ作成、健康づくり体操教室開催）
- ④居場所づくり（公民館での寺子屋活動、子育てママのためのプチ起業講座）

*地域づくりや地域課題の解決を図るための活動の初期団体で活動基盤を整えたい団体、既に一定の活動実績があり、活動を拡充させたい団体、地域社会貢献活動（CSR）を行う事業者など幅広い団体が応募できます

②アンダー19部門

事業実施年度において市内在住または在学の満19歳未満を主体とした市民団体が行う事業部門です。

ただし、20歳以上の方を代表者としてください。

本部門は、若い世代が積極的に地域に関わることを進めるものですが、19歳以上の方の参加を妨げるものではありませんので、積極的に活動に関わってください。

【具体例】

- ①高校生によるチャリティバザーの開催
- ②小学生による地域情報の発信を行うためのこども通信の発行
- ③高校生による地域の子どものための学習サポートを行う寺子屋の開催
- ④中学生による高齢者とのおしゃべりサロンの開催

5 補助金の額

事業の実施に直接要する経費について、次に示す補助額、補助率を上限として予算の範囲内で補助金を交付します。補助率の上限というのは、対象経費（6 対象経費 参照）のうち何%まで補助金の交付が可能かを示したものです。上限額の範囲内で補助金を設定してください。

例）申請一年度目・対象経費 56 万円の場合⇒56 万円×90%=50 万 4 千円のため、上限である 50 万円まで補助金の申請が可能

*補助金の額は千円未満を切り捨てた額となります

	一年度目 [補助上限額（率）]	二年度目 [補助上限額（率）]	三年度目 [補助上限額（率）]
①地域づくり部門	50 万円（90%） （対象経費の 90%）	40 万円（90%） （対象経費の 90%）	30 万円（90%） （対象経費の 90%）
②アンダー19部門	10 万円（対象経費の 100%）		

*補助期間は単年度ですが、補助を継続することで次年度以降の事業の波及性、発展性等が見込まれるものや大きな成果が期待できる場合は、三年度を限度に申請が可能です（審査は年度ごと実施）

*事業の実績を踏まえて、課題、問題点を検証し、改めて計画をつくり、次年度以降の提案につなげてください

□補助金の金額の変更について

補助金の金額は、募集期間から最終提出期間のうち、募集期間が終了した後は、原則金額を上げることができませんので、ご注意ください。

また、決算時に対象経費の 90%が予算時の補助金額に満たない場合は決算時の対象経費の 90%までしか補助金を出すことができませんので、ご注意ください。

6 対象経費

各部門において補助金の対象となる経費は次のとおりですが、経費の妥当性や金額については、担当課との意見交換や審査の段階で調整する場合があります。

①報償費
②旅費
③需用費
④委託料
⑤通信運搬費
⑥使用料及び賃借料
⑦備品購入費
⑧保険料
⑨その他の経費

*市民団体に経常的に要する経費（事務所の光熱水費やスタッフ人件費等）等は対象となりません
また、補助金の申請後、市からの補助金の交付決定通知以前に発生した費用は原則対象となりません

□有償ボランティアの考え方（参考）

・有償ボランティア費（報償費）の計上にあたっては、公金を活用しての事業となること、また他の市民活動やボランティア活動との公平性等を考慮し、真に必要な経費であるかを精査してください。

[有償ボランティアの目安]

500 円／半日（4 時間程度） 1,000 円／一日（8 時間程度）

□予算計上時の注意点

・原則、団体構成員に支払う費用についてはどの費目においても対象外経費です。
*ただし、専門的な知識を有する方への依頼等を除く

・原則、対象経費の基準に当てはまっている費目であっても、予算書の対象経費内に計上されていないものは、決算時に対象外経費での計上となります。計上漏れがないかご確認のうえ、ご提出ください。

・原則、採択は単年度事業に対してのものであるため、採択事業実施年度の翌年度以降の計画に向けた準備に関する費用については対象外であっても計上できません。（繰越金等）

□対象となる経費の例示

費目	例示
報償費	◆外部講師、出演者への謝金（外部講師への交通費は報償費で計上）*ただし、1人あたりの補助金の上限を五万円とする ◆有償ボランティア費（主たる活動への団体構成員以外に対する謝金）*ただし、総事業費に占める割合が概ね三割を超えない範囲 （認められない経費） ・団体構成員に対する謝金・菓子折り（現金以外のもの） ・団体構成員でない場合であっても、 団体内部の会議への参加に対する謝金
旅費	◆事業実施にあたり直接的に要するバス、電車等の交通費 *ICカード使用等で費用の証明が困難な場合は、経路、移動先等が客観的にわかる資料を整えること （認められない経費） ・団体構成員に対する交通費、イベント等参加者の交通費
需用費	消耗品費 ◆筆記用具、コピー用紙、種苗、環境衛生のための薬剤等 （認められない経費） ・出演者への花束等の品物 ・コンテスト等のトロフィー、メダル、記念品
	印刷製本費 ◆PRポスター、パンフレット、プログラム、コピー、写真の現像等
	燃料費 ◆事業実施にあたり直接的に要するガソリン等
役務費	通信運搬費 ◆募集案内、チラシ等の送料 ◆会場までの資材等の配送に係る運搬費 （認められない経費） ・団体が所有している電話等の通通信費 ・団体構成員のみの会議等に係る通信費
	手数料 ◆振込手数料、クリーニング代
	保険料 ◆事業実施にあたり必要な保険料（イベント保険等） （認められない経費） ・火災、地震等の家屋に係る保険料
委託費	◆事業実施にあたり、専門的な技術等（デザイン等）を要する業務を外部に委託する場合の経費 （認められない経費） ・次年度以降の計画のためのデザイン等に係る経費
使用料及び賃借料	◆公民館等公共施設、会議室、イベント会場等使用料 ◆機材レンタル料 ◆事業実施のために借り上げた施設の賃借料 （認められない経費） ・個人に車両等を借りた場合の使用料 ・団体等が管理する施設等への使用料 ・団体事務所等、団体運営のための経常的な経費に当たるもの
原材料費	◆イベントで使用する食材や工作の材料等
備品購入費 *概ね二万円以上	◆事業実施にあたり必要不可欠なもので、長期的に当該事業において使用する物品 （認められない経費） ・パソコン等、他の事業においても使用可能な汎用性の高い物品
その他経費	◆事業のために必要な経費で、市長が必要かつ適切と認める経費

7 補助金以外の協力・サポート

市は、補助金の交付以外にも、相談、会場の確保、情報提供等、事業の実施にあたり必要な社会資源の提供を積極的に行います。

提案にあたっては、双方が提供できる社会資源について意見交換を行い、効果的に事業の実施ができるよう努めます。

□みんなで地域づくりセンターによるサポート

みんなで地域づくりセンターでは、普段、生活の中で市民のみなさんが感じる地域の課題やその解決方法、地域をよりよくする取組についてアイデアを出し合う場を設けています。

また事業提案に向けた申請書の書き方、資料作成のサポート等も行っていますので、ご活用ください。

みんなで地域づくりセンター（市文化センター内）
〒284-0001 四街道市大日 396
TEL: 043-304-7065 FAX: 043-424-8920
MAIL: info@minnade.org
火曜—金曜 9:00—20:00 土曜 9:00—17:00

8 応募手順・方法

①書類の提出（募集期間内）

次の書類を作成の上、政策推進課に提出してください。

- ①みんなで地域づくり事業提案書（実施要綱様式第1号）
- ②みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第2号）
- ③みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第3号）
- ④提案団体概要書（実施要綱第4号）
- ⑤団体の規約、会則等
- ⑥団体名簿
- ⑦団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等）

*募集期間内に提出された書類の内容や予算額等は、原則として、これより先の手順において団体都合で変更することはできません。この段階で事業の基礎は固めた状態で書類を提出してください。ただし、政策推進課から団体に書類の修正や再提出をお願いする場合があります

②担当課との意見交換等

担当課との意見交換等を行い、事業を実施する上での課題等を共有します。

*意見交換期間中に政策推進課から担当課宛に意見照会を行い、その結果を各団体にお知らせします。各団体でも必要に応じて担当課と打ち合わせを行ってください

③書類の最終提出

担当課との意見交換後、必要に応じて提案書類を修正した上で、再度政策推進課に提出してください。

*必ず①募集期間内に提出した後、②の手順を経て、③最終提出してください

④書類の配布場所「QR」

①政策推進課 ②みんなで地域づくりセンター ③市ホームページ「コラボ四街道」で検索。

9 審査

提案された事業は、みんなで地域づくり推進委員会で書類審査及び公開プレゼンテーションにより審査されます。

□審査基準 *令和2年度事業審査時

審査項目	審査の視点
市民ニーズ・地域課題の認識・事業の必要性	市民や地域のニーズ、地域課題等を的確に捉えているか また本制度で事業を実施する必要があるか
企画力・企画の適正性	地域課題の解決や地域づくりを効果的、効率的に進めていくための具体的かつ現実的な企画になっているか
実現可能性・継続性	事業を実施する能力（専門知識、技術、人材等）があるか また今後、事業の継続性（資金調達等）が見込めるか
発展性・波及性	事業の発展や地域に波及することが期待できるか また多様な市民等の参加・参画が見込めるか
成果・費用対効果	事業を実施することにより期待できる成果は明確かつ妥当であるか またその成果に見合った妥当な経費の見積もりがされているか

5点	4点	3点	2点	1点
とても評価できる	評価できる	基準（採択相当）	やや評価できない	評価できない

*各項目を5点満点で採点し、事業採択の適否を審査します。

*各委員が採点した平均点が15点に満たない場合は選考しないものとします。

*審査基準等は、協議により変更される場合があります

10 事業の実施から完了まで

①補助金の申請

審査結果をもとに、市長は採択事業を決定します。

採択された市民団体は、必要に応じて担当課と詳細な意見交換等を行います。

補助金の交付にあたっては、次の書類を作成の上、4月1日以降、政策推進課に提出してください。

- ①みんなで地域づくり事業補助金交付申請書（補助金交付要綱様式第1号）
- ②みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第2号）
- ③みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第3号）
- ④提案団体概要書（実施要綱様式第4号）
- ⑤団体の規約、会則等
- ⑥団体名簿
- ⑦その他申請にあたり必要となるもの

*ただし②～⑥は提案時から変更がない場合は省略可

*本年度書式が変更になっていますので、必ず最新の書類をご使用ください。

*補助金の概算払いを希望する場合は、事前にご相談ください

*団体名、代表者名、事業内容等について、ホームページ等で公開する場合があります

②事業の実施

事業の実施は4月1日以降となります。事業に係る経費の支出も、これ以降に行うようにしてください。事業を実施する上では、担当課と協力し、必要に応じて、協議、調整を行ってください。事業の実施にあたり、チラシ等広報物の発行、SNSでの広報等を行う場合にはコラボ四街道採択事業である旨の表記をお願いします。また、政策推進課やみんなで地域づくりセンターにおいても事業実施のサポートを行いますので、ご相談ください。

③事業の変更等

事業内容に変更が生じた場合、軽微な変更を除いて、みんなで地域づくり事業補助金変更（中止・廃止）承認申請書（補助金交付要綱様式第3号）の提出が必要となります。また天災、団体の都合などにより、事業の実施ができない場合なども同様に提出することとなりますので、ご相談ください。

〔軽微な変更の例〕

- ・事業内容の目的の達成に支障のない範囲での消耗品等の購入の増減
 - ・予定開催日と同月内での日程変更（参加者がより見込める等）
 - ・団体構成員の変更 等
- *上記の例にあっても、事業内容、全体への影響などの総合的な判断により、軽微な変更と認められない場合もあるので、早めにご相談ください

*事業を大幅に変更される場合には、補助金の一部または全部を返金いただく可能性があります。

④事業の完了

事業が完了したときは、市長が定める期日までに次の書類を作成して、政策推進課に直接提出してください。

- ①みんなで地域づくり事業補助金実績報告書（補助金交付要綱様式第4号）
- ②事業報告書（コラボ四街道まとめ）
- ③収支決算書
- ④経費の支出がわかる書類（領収書など）
- ⑤印刷物や任意書式の報告書など必要と認められる書類

*②、③、⑤の書類は、委員会での資料として配布したり、市ホームページ上で公開する場合があります。（個人情報が入っている場合は、その部分を伏せた形で公表します）

⑤補助金の確定

市は、上記書類を審査し、補助金の額を確定し、市民団体へ通知します。なお、審査の結果、補助金の減額を求める場合があります。

11 事業のふりかえり

市民団体は、事業をふりかえるために「コラボ四街道まとめ」を作成して、政策推進課に提出します。提出された書類をもとに、事業報告会などにより、みんなで地域づくり推進委員会に意見を聴き、次年度以降の事業に反映し、事業の質の向上などを図っていきます。

12 事業の流れ



13 おわりに

コラボ四街道は、市民団体が、地域にある課題や魅力ある地域をつくっていくための事業を市や様々な団体と協力しながら進めていく制度ですが、事業終了後も継続はもちろん、充実した事業に発展させていくための連携や協力を絶えず行っていくことが大切です。

関連資料

[記載例]

提出時点での市長名を記載

四街道市長 ○○ ○○ 様

年 月 日

職名（代表、実行委員長等）も記載
例年、代表者の職名の記入漏れが多いため注意してください

名称
提案団体 所在地
代表者 代表 ○○ ○○

事業名だけで事業内容、目的が伝わる名称に

みんなで地域づくり事業提案書

事業の概要を100字程度で記載

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		①・2・3 年度目	
事業名	……でイキイキ……活性化事業		
事業概要	……を対象に……を実施して、……広く……するための事業をするもの		
事業分野		保健・医療・福祉	<input type="radio"/> 社会教育
		まちづくり	<input type="radio"/> 観光
		農村等振興	<input type="radio"/> 文化・芸術・スポーツ
		環境	<input type="radio"/> 災害救援
		地域安全	<input type="radio"/> 人権擁護・平和
		国際協力	<input type="radio"/> 男女共同参画
	<input checked="" type="radio"/>	子どもの健全育成	<input type="radio"/> 情報化社会
		科学技術	<input type="radio"/> 経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	<input type="radio"/> 消費者保護
		市民活動支援	<input type="radio"/> その他()
事業部門	地域づくり部門	<input type="radio"/>	アンダー19 部門
市の担当課	○○○課 △△△課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業計画書(様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支 (3) 提案団体概要書(様式第4号) 連携や協力を得たい市の担当課を記載 (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印を付けるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎印を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」は、いずれかの部門に○印を付けてください。

【記載例】

みんなで地域づくり事業計画書

事業名	事業を行うきっかけや課題認識、背景を記載 またどのように市民の役に立つか、どのような地域を目指すか	
目的・必要性	以前より、四街道市では……という課題があり、……で対応している現状がありました。 そのような中で……を実施することで……の充実が図れ、市民にとって……な地域となります。 当団体がこれまで実施してきた……のノウハウを生かし、……することでこのような地域とすることが本事業における目的です。	
内容	1. ……の開催 [内容]……を対象に、……を講師に……を開催 [会場]……公民館 2. ……の実施 [内容]……を対象に、……を制作する……を実施 [会場]……センター	具体的な事業内容、対象者、会場、回数など事業の内容を詳細に記載
スケジュール	時期	具体的な取組
	5月	広報活動（チラシ・ポスター配布）、参加者募集
	7月	リハーサル
	8月	イベント、講座などの本番の日程だけでなく、主要な事前準備や広報のタイミングなど事業全体の流れがわかるよう記載
担当課	(担当課) 〇〇〇課、△△△課	
	(役割) [〇〇〇課] ……指導員の紹介 [△△△課] ……に関するアドバイス 市政だよりへのイベント情報掲載	会場使用、広報協力、アドバイスなど、事業実施にあたって行政の担当課と連携や協力をしたい内容について記載
他団体との連携	……大学（講師の紹介） NPO法人……（技術的支援） ……の会（広報協力）	他機関などで、事業実施にあたって協力を得られている（予定含む）内容について記載
期待される成果	(1)……の開催により多くの……に関心のある市民が集まることで、……意識を向上させるとともに、……他地域へ広がっていくことが期待できる 参加者数：〇〇人。 (2)……の実施により得られたアンケート結果を踏まえて、……をまとめ、今後の……活動に活かしていくことが期待できる アンケートサンプル数：〇〇件	事業を実施することで得られる市民（地域）への効果や波及効果などについて数値を交えて記載

【記載例】

みんなで地域づくり事業収支予算書

事業名	〇〇〇事業
-----	-------

【収入】

対象経費（B）の補助割合（対象部門毎の上限）
以内で千円未満切り捨てになっているか確認

(単位：円)

項目	予算額	具体的な内容・積算
市補助金	300,000	
自己資金	55,000	会費 30,000円 講座参加費 25,000円
寄付金	20,000	一口5,000円×4件
収入合計	375,000	A(=D)

【支出】

(単位：円)

項目	予算額	具体的な内容・積算
対象経費	報償費	80,000 講師謝礼金 50,000円 有償ボランティア費 30,000円 (1,000円×10人×3回)
	消耗品費	45,000 コピー用紙 10,000円 (1,000円×10個) 文具類（筆記用具、マジック等） 15,000円 インク 20,000円 (4,000円×5個)
	印刷製本費	80,000 イベントチラシ 50,000円 (50円×10,000枚) 講座チラシ 30,000円 (50円×6,000枚)
	通信運搬費	40,000 イベントチラシ郵送料 40,000円 (80円×5,000円)
	使用料及び賃借料	90,000 イベント会場使用料 60,000円 (30,000円×2日) テント賃借料 30,000円 (15,000円×2日)
小計	335,000	B 積算根拠（単価、数量）を記載
対象外経費	報償費	10,000 イベント協力者菓子折り
	食糧費	20,000 イベント打合せ食糧費
	通信運搬費	10,000 団体電話使用料
小計	40,000	C 収入合計欄（A）と等しくなるよう記載
支出合計	375,000	D(B+C)

備考

- 見積書等、積算の根拠となる書類がある場合は、当該書類を添付してください。
- 提案時における事業費及び市補助金額は、担当課との意見交換等を経て変更される場合があります。

[記載例]

提案団体概要書

団 体 名		
所 在 地 等	(〒 —)	事務所がある場合は所在地、 個人宅の場合は住所を記載
	電 話	
	ファクシミリ	
	電 子 メール	HP や Facebook などがある場合は記載
代 表 者	ホ ー ム ペ ー ジ	
	役 職	
	ふ り が な 氏 名	
連 絡 責 任 者	住 所 (〒 —)	
	ふ り が な 氏 名	郵送の送付先、連絡窓口の責任者を記載 (代表者の場合は「同上」と記載)
	住 所 (〒 —)	
	電 話	
	電 子 メール	
設 立 年	年 会 費	円
構 成 員 数	人(うち四街道市民 人)	
主 な 活 動 地 域	(市内)	
	(市外)	
活 動 目 的	団体の活動(事業)目的を記載 (本制度活用のために立ち上げた場合は、その目的を記載)	
主 な 活 動 実 績	設立から現在までの団体の主な活動実績について記載 (当市の補助金、助成金等の交付実績等を含む)	
そ の 他	(PR等) 団体活動の補足事項、PR事項などあれば記載	

事業分野一覧

1 保健・医療・福祉の増進	2 社会教育の推進
高齢者支援、障害者支援、生活支援、点字・手話教育活動、公衆衛生の啓発、薬品の情報提供	生涯学習活動、読み書き教室、不登校児や引きこもり青少年の学びの場を提供する活動
3 まちづくりの推進	4 観光の振興
まちおこし、地域活性化、地域コミュニティの活性化、地域情報誌の発行、バリアフリーの推進	地域ブランドづくり、観光商品開発
5 農村等の振興	6 学術・文化・芸術・スポーツの振興
過疎防止活動、就農支援、地産地消	伝統文化の振興・継承、芸術家への支援、演劇鑑賞会、地域楽団、地域劇団、スポーツ大会やスポーツ教室
7 環境の保全	8 災害救援活動
野生動物や野鳥の保護、森林保全、環境セミナーなど自然・環境教育活動、公害防止活動、ペット保護	災害の救援活動、被災者の生活支援、救援ネットワークづくり、災害予防の普及活動
9 地域安全活動	10 人権擁護・平和の推進
防犯パトロール、犯罪・事故の予防、交通安全活動、交通マナー向上活動、登下校時の見守り活動	外国人、障害者、女性、子どもなどの人権啓発、核兵器廃絶などの平和推進活動、いじめ防止活動
11 国際協力活動	12 男女共同参画の促進
留学生の支援活動、帰国者の援助、国際交流活動、海外との文化交流	女性の自立支援、セクハラ防止活動、雇用の充実を図る活動、女性が安心して働ける環境整備を促す活動
13 子どもの健全育成	14 情報化社会の発展
子育て支援、子ども会活動、児童保育、学童保育、非行防止活動、いじめ相談、児童相談	パソコン教室などインターネットを利用した学習システムの普及活動、情報通信ネットワークづくり
15 科学技術の振興	16 経済活動の活性化
科学技術とまちづくりなどの異分野をつなぐ活動、科学教育教室など科学や技術への関心を高める活動	地域産業の振興など、地域経済活性化の促進を図る活動、起業支援、コミュニティビジネス支援
17 職業能力開発・雇用機会の拡充	18 消費者保護活動
就労情報の提供・就労支援、雇用創出を図る活動、高齢者への雇用支援、障害者への職業訓練活動	商品知識の普及を図る活動、詐欺被害にあわないための消費者教育活動、消費者相談
19 市民活動支援	20 その他
上記の活動を行う団体に対する助言や支援、団体間の連絡・交流を図る活動、中間支援活動	その他、地域づくりに関する活動

[Q & A]

- Q. 構成員は市内在住でなければいけませんか。
A. 構成員が市外在住でも構いませんが、団体の主な活動場所が市内であることが必要です。また、本制度に申請する事業に関しては市内で実施する必要があります。団体が、本制度を活用した事業とは別の事業において市外での活動を行うのは問題ありません。
- Q. 複数の部門で事業を提案することは可能ですか。
A. アンダー19部門と地域づくり部門は同時に提案することはできません。
- Q. 担当課は必ず設定しなければいけませんか。
A. 必須ではありません。必要に応じて担当課を設定してください。
- Q. 国、県及びそれらの外郭団体等から助成を受けている事業は本制度の対象にならないということですが、既に助成を受けている団体で、現在助成を受けている事業とは異なる事業での申請は可能ですか。
A. 団体として他の制度で助成を受けていたとしても、本制度に申請する事業と異なっていれば問題ありません。
市の他の制度で助成を受けている場合も同様です。
- Q. 過去に事業が採択されたことがある団体が、別の事業で新たに申請することは可能ですか。
A. 過去に採択された事業と趣旨の異なる事業である場合には、新規事業として申請することが可能です。不安のある場合は、ご相談ください。
- Q. 複数年度に渡る事業で補助金を申請したい場合は、年度ごとに申請する必要がありますか。
A. 同じ事業では、最大で三年度採択されるまで申請が可能ですが、申請の手続き、審査、補助金の交付は年度ごとに行います。また、過去に採択されたことのある事業でも、次の年度の申請時に必ずしも採択になるとは限りません。事業の実績を踏まえて、課題、問題点を検証し、改めて計画をつくり、次年度以降の提案につなげてください。
- Q. 一年度目、もしくは二年度目まで事業が採択され、本制度を活用して活動を行った後、数年後に同様の事業を再度提案することは可能ですか。
A. 可能です。以前提案したものと同様の事業内容である場合は、年度が引き継がれ、補助金額は次の年度のもものが適用されます。例えば、一年度のみ本制度の補助金を活用しての活動を行い、数年間自主財源で活動を行った後に同様の事業で申請を行う場合は、補助金の上限額は二年度目のものが適用されます。

コラボ四街道ガイドブック 2022

四街道市経営企画部政策推進課
みんなで地域づくり係
TEL 043-379-7553 / FAX 043-424-8920

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）提案事業一覧（令和4年度実施）

	団体名 (代表者氏名)	事業名	事業概要	新規 継続		事業 部門		要望額	担当課
				新	継	地	19		
1	総合公園の植生調査の会 (高井 昭夫)	四街道総合公園の植生リスト改訂版を増刷する事業	植生リストにより、総合公園の里山景観が残された自然環境の素晴らしさを市民に啓蒙し、総合公園に自生する希少な植物の保全・保護等に役立てる。		③	○		297,000	環境政策課
2	ひみつのおしゃれ工房 (佐々木 和枝)	ひみつのおしゃれ工房リメイクファブリックスタートアップ事業	外で働く事が出来ない事情のある方々に内職をお願いして古着をアップサイクルし、パッチワークなどの生地にしたリメイクファブリックを事業者などに広めていく。		②	○		400,000	
3	四街道みらい会 (長谷川 晃一)	四街道市旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業	旭ヶ丘・みそら地区等に居住する小学生と、その家族を対象として安価に食を提供することによって、子育て支援、食育、地域活性化の場、孤立孤食の減少の改善を目的とする。また、プロの料理人が調理に携わり、飲食店が主催することで食の魅力を感じてもらうことも目的とする。また、持続可能な事業として確立するために食堂運営資金を作る為の農園を始め、補助金や募金に頼らない運営体制の構築を図っていく。		②	○		400,000	産業振興課 子育て支援課
								地: 1,097,000 拠: 0	

【新規・継続】新…新規事業、継…継続事業（○数字は本制度への申請回数） / 【事業部門】地…地域づくり部門、19…アンダー19部門

コラボ四街道選考方針(案)

1 選考方法

補助対象団体は、提出された書類及びプレゼンテーションによって選考します。
プレゼンテーションは関係者のみ観覧可とし、審査結果は公表します（審査過程は非公開）。

(1) 書類審査

- ①提出された書類及び添付書類により審査します。
- ②書類審査による質問、意見等は、原則としてプレゼンテーションで確認します。

(2) プレゼンテーションの実施方法

- ①説明に当たって使用する資料及び手法（模造紙、パワーポイント等）は自由とします。ただし、模造紙を使用する場合は、原則として2枚までとします。
- ②各団体の説明時間は7分、質疑応答時間は7分とします。
- ③質問については、下記「2 審査基準」に記載の事項、提出書類の記載内容及び説明内容について不明な点、その他委員において質問したい事項について行います。

(3) 審査

- ①各委員は、下記「2 審査基準」に基づき、別紙「みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）評価票」（以下「評価票」という。）により審査を行います。ただし、提案団体に属するまたは密接に関わりのある委員がいる場合は、当該団体の審査から除外します。
- ②採点は、合計点 25 点とします。各審査項目の最高点を 5 点、最低点を 1 点とします。
- ③評価票は、委員の審査が終了後、事務局で取りまとめ集計します。

(4) 選考

- ①各委員が採点した点数の平均点を委員会での点数とし、予算の範囲内で平均点が高い団体から順次、補助対象団体を審査します。意見交換後、最終採点を行い、補助団体を選考します。また減額や削除することが望ましい予算について意見を付すことができます。
- ②委員の発議により、更に再採点を行うことを可能とします。
- ③上記の場合においても、平均点が 15 点に満たない場合は選考しないものとします。

2 審査基準【委員確認事項】

	審査項目	審査の視点	配点
①	市民ニーズ・地域課題の認識・事業の必要性	市民や地域のニーズ（地域特性、四街道らしさ等）、地域課題等を的確に捉えているか。また本制度で事業を実施する必要があるか。（継続事業については現状把握、課題認識等が的確にされているか。） 【計画書[目的・必要性]】	5
②	企画力・企画の適正性	地域課題の解決や地域づくりを効果的、効率的に進めていくための具体的かつ現実的な企画になっているか。（行政等との連携、他団体との協力等の明確性、妥当性、事業効果等含む） 【計画書[内容]・[スケジュール]・[担当課]・[他団体との連携]】	5
③	実現可能性・継続性	事業を実施する能力（専門知識、技術、人材等）があるか。 また今後、事業の継続性（資金調達、体制等）が見込めるか。 【提案団体概要書、名簿、収支予算書、計画書[内容]】	5
④	発展性・波及性	事業の発展や地域に波及することが期待できるか。 また多様な市民等の参加・参画が見込めるか。 【計画書[内容]・[他団体との連携]】	5
⑤	成果・費用対効果	事業を実施することにより期待できる成果は明確かつ妥当であるか。（数量、人数、影響等） またその成果（事業内容、規模等含む）に見合った妥当な経費の見積もりがされているか。 【計画書[期待される成果]、収支予算書、計画書[内容]】	5

<採点基準>

5点	とても評価できる[基準を十分に満たし、妥当性、適格性が大いに認められる]
4点	評価できる
3点	基準[事業採択相当]
2点	やや評価できない
1点	全く評価できない[基準を全く満たしておらず、妥当性、適格性が認められない]

コラボ四街道プレゼンテーションタイムスケジュール

令和 4 年 2 月 14 日 (月)

市文化センター301 号室

(説明時間 7 分→質疑応答 7 分→交代 2 分)

時間	内容
9:45～9:55	プレゼンテーション事前説明 (控室) *終了後 プレゼン会場入室
10:00～	プレゼンテーション開始
10:05～10:19	(1) 総合公園の植生調査の会(提案書類①)
10:21～10:35	(2) ひみつのおしゃれ工房(提案書類②)
10:37～10:51	(3) 四街道みらい会(提案書類③)
10:51～11:00	休憩
11:00～12:15	審議・採点・集計 (非公開)

- (注)
- ・進行状況によりプレゼンテーションの時間が早まる場合があります。特定の団体の傍聴を希望される方は余裕を持ってお早めにお越しください。
 - ・質疑応答は限られた時間で行いますので簡潔にお答えください。
 - ・審議状況により結果を後日公表する場合があります。